第3節　平成25年度調査

1　調査の方法（第81・82図）

発掘作業員を直接雇用して調査を実施した。

平面図の作成は、手書き図面とトータルステーションを使用した遺構実測支援システム「遺構くん」を併用して行った。断面図は、手書きで作成した。写真撮影は、デジタルカメラを中心に、一部6×7のモノクロフィルム及びポジフィルムで実施した。

調査に伴う地区割は、石田高等学校敷地の北東隅付近の国土座標X=140460 m、Y = 65660 mを原点として、これから西へ20 mごとにA、B、C・・・、南へ同じ20 mごとに1、2、3・・・として、各20 m方眼はA1、B2のように呼ぶ（大グリッド）。大グリッド内は、4 m方眼で区画分けし、その名称は北東隅を1としてそこから南へ2、3、4、5とする。次は西へ移動して北から6、7、8のように呼び、大グリッド内は1から25までの小グリッドとなる。調査区内の位置表示として、D1-23のように大小のグリッド名を利用し、これを遺構の位置表示や遺物の取り上げ等に使用した。ただし、遺構番号は平成25年度調査区全体で通し番号となっている。

2　層序（第83、85、86図）

現地表下は、造成土、旧耕作土及び床土があり、約50cmの厚さである。この下は、部分的に薄い遺物包含層もあるが、遺構検出面となっている。現地表の標高は約32.8 mで、調査区内で大きな差異はない。遺構検出面の標高は調査区東部では32.2 m前後、調査区西部では削平により約31.5 mとやや低くなっている。調査区西部で大溝以外の建物遺構はほとんど存在しない一因と考えられる。

3　遺構、遺物

（1）弥生時代終末

竪穴建物跡が9棟検出されている。いずれも出土遺物は小型の鉢を含むことから、弥生時代終末の時期と考えられる。また、土器棺1基を検出した。

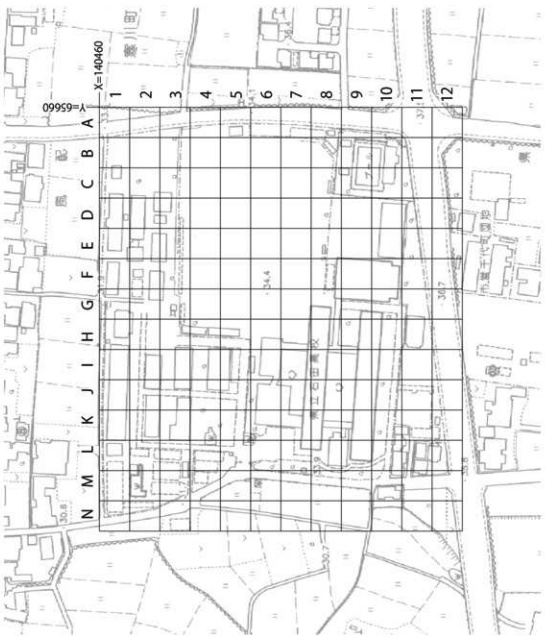
竪穴建物跡

SH02（第87 ～ 89図）

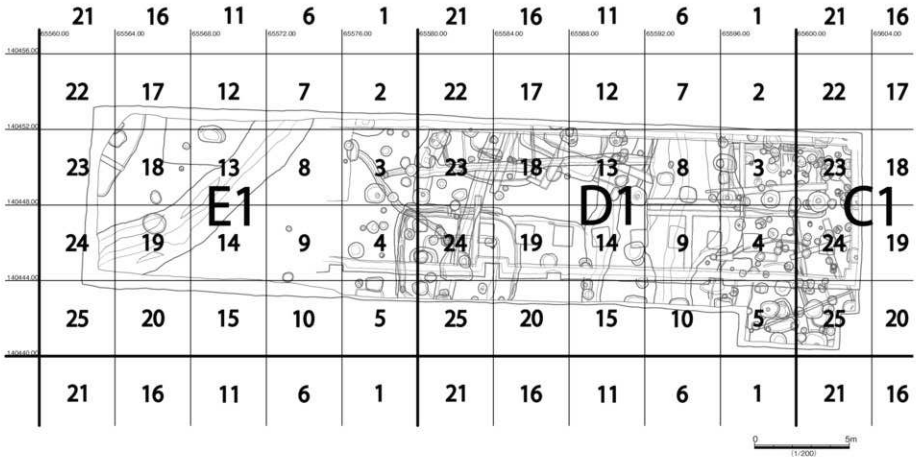
平面形は円形を呈する。推定直径は約8 mである。SH03より古い。ベッド状遺構を持つ。主柱穴は6～7穴と考えられる。壁溝がある。

中央土坑は、いわゆる「1O型土坑」である。土坑K1は底面に炭化物層がある。また土坑の周りは、基盤層土が盛り上がった土堤状となっている。また土坑北側に焼土面がある。

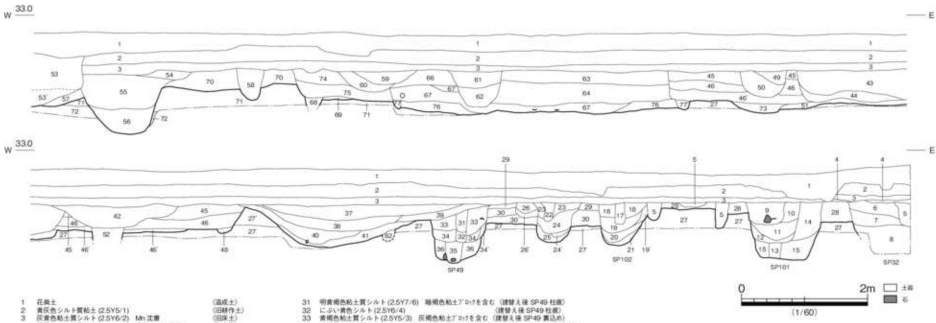
出土遺物は弥生土器で、1～7は、貼床層等の建物床面付近で出土したものである。8～12は、中央土坑K1及びK2から出土したものである。13～21は上層から出土したものである。22～31はトレンチ等から出土したもので、出土層位の不明確なものである。32は、SH02とSH03間のトレンチから出土したものである。33は上層から出土した石英製の叩き石である。



第81図　グリッド配置図



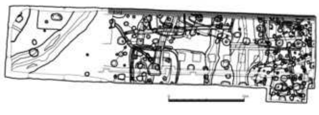
第 82 図　調査区グリッド図



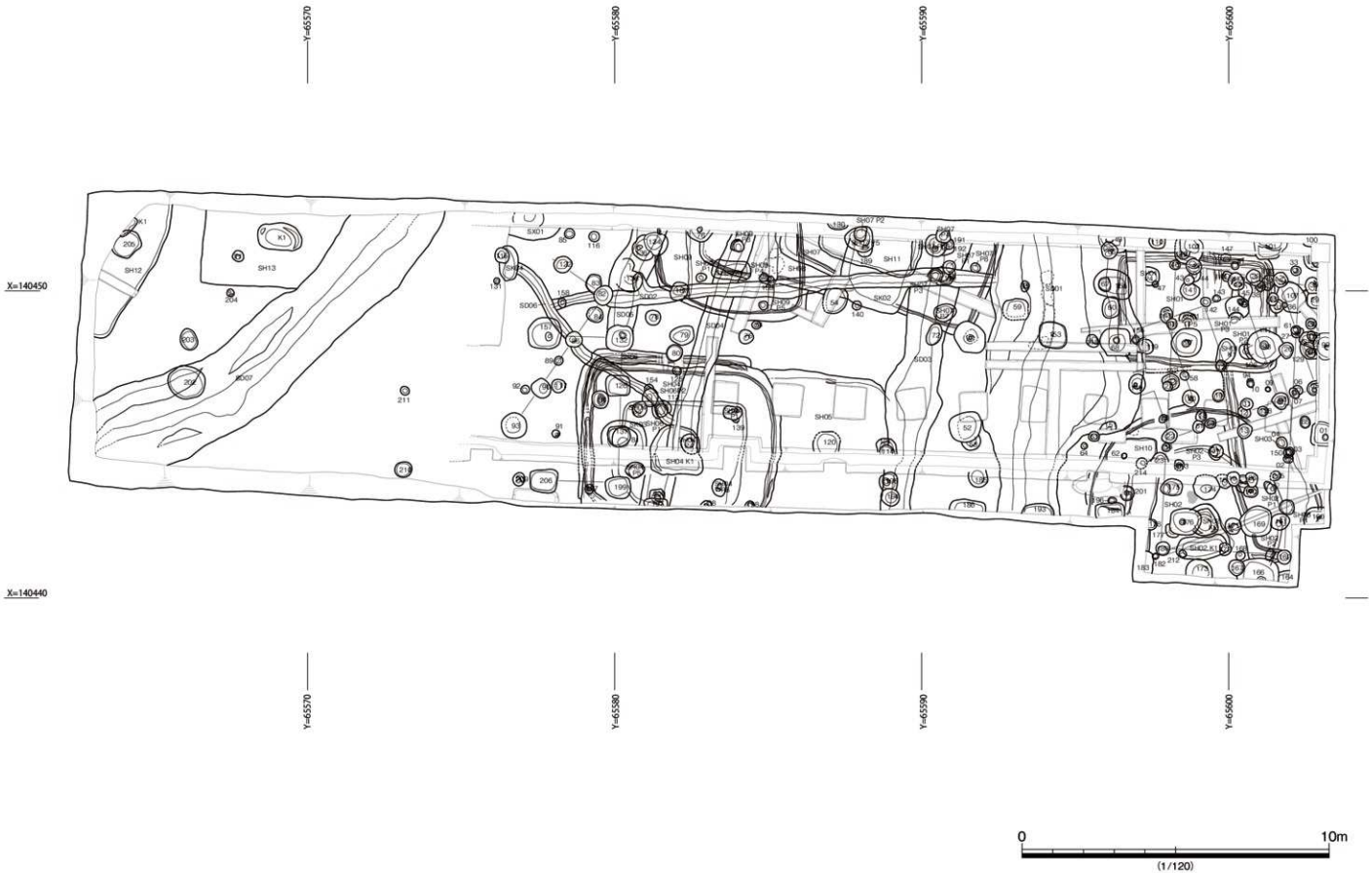
1　花崗土　（造成土）
2　黄灰色シルト質粘土 (2.5Y5/1)　（旧耕作土）
3　灰黄色粘土質シルト (2.5Y6/2)　Mn 沈着　（旧床土）
4　黒褐色シルト質粘土 (2.5Y3/2)　多量の Mn 沈着　（包含層）
5　にぶい黄色粘土質シルト (2.5Y6/4)　砂利を含む
6　暗灰黄色シルト質粘土 (2.5Y4/2)　暗褐色粘土ブロックを含む
7　灰黄褐色粘土質シルト (2.5Y6/2)　少量の黄褐色粘土ブロックを含む
8　黄褐色粘土質シルト (2.5Y5/3)　少量の暗黄褐色粘土ブロックを含む
9　明黄褐色粘土質シルト (2.5Y6/6)　褐色粘土ブロックを含む
（建替え後 SP101 抜き取り痕）
10　にぶい黄褐色粘土質シルト (10YR4/3)　暗黄褐色粘土ブロックを含む
（建替え後 SP101 裏込め）
11　灰黄褐色粘土質シルト (10YR5/2)　暗灰色粘土ブロックを含む
（建替え後 SP101 裏込め）
12　褐灰色粘土質シルト (10YR4/1)　暗黄褐色粘土ブロックを含む
（建替え後 SP101 裏込め）
13　褐灰色粘土 (10YR5/1)　ベタ付く　（建替え前 SP101 柱痕）
14　褐灰色シルト質粘土 (10YR4/1)　暗黄褐色粘土ブロックを含む
（建替え前 SP101 裏込め）
15　黄灰色粘土質シルト (2.5Y6/1)　多量の黄褐色粘土ブロックを含む
（建替え前 SP101 裏込め）
17　明黄褐色粘土質シルト (2.5Y6/8)　ややしまり悪い　（SP102 柱痕）
18　黄褐色粘土質シルト (2.5Y5/4)　暗灰色粘土ブロックを含む　（SP102 裏込め）
19　暗灰黄色粘土質シルト (2.5Y5/2)　暗黄褐色粘土ブロックを含む　（SP102 裏込め）
19'　やや黄味がかる
20　黄灰色粘土質シルト (2.5Y4/1)　黄褐色粘土ブロックを含む　（SP102 裏込め）
21　黄褐色粘土質シルト (2.5Y5/6)　暗灰色粘土ブロックを含む　（SP102 裏込め）
22　にぶい黄色粘土質シルト (2.5Y6/4)　ややしまり悪い　（SP110 柱痕）
23　暗灰黄色シルト質粘土 (2.5Y4/2)　黄褐色粘土ブロックを含む　（SP110 裏込め）
24　褐灰色粘土質シルト (10YR4/1)　暗黄褐色粘土ブロックを含む　（SP110 裏込め）
24'　24 層よりやや暗い　（SP110 裏込め）
25　黄褐色シルト質粘土 (2.5Y5/4)　暗灰色粘土ブロックを含む　（SP110 裏込め）
26　灰黄色シルト質粘土 (2.5Y6/2)　暗褐色粘土ブロックを含む
26'　26 層より暗い
27　灰黄色砂質シルト (2.5Y6/2)　（ベース土）
27'　砂質度が高い
28　灰黄褐色シルト質粘土 (10YR5/2)　（ベース土）
29　灰オリーブ色粘土質シルト (5Y5/2)　（ベース土）
30　灰色粘土質シルト (5Y4/1)　砂利を含む
30'　30 層より黄味がかる

31　明黄褐色粘土質シルト (2.5Y7/6)　暗褐色粘土ブロックを含む　（建替え後 SP49 柱痕）
32　にぶい黄色シルト (2.5Y6/4)　（建替え後 SP49 柱痕）
33　黄褐色粘土質シルト (2.5Y5/3)　灰褐色粘土ブロックを含む　（建替え後 SP49 裏込め）
34　暗灰黄色粘土質シルト (2.5Y5/2)　ごく少量の焼土塊を含む　（建替え後 SP49 裏込め）
34'　黄味強い
35　黄色シルト質粘土 (5Y7/6)　暗灰褐色粘土ブロックを含む　（建替え前 SP49 柱痕）
36　明黄褐色シルト質粘土 (2.5Y6/6)　灰色粘土ブロックを含む　（建替え前 SP49 裏込め）
37　にぶい黄色シルト質粘土 (2.5Y6/4)　ブロック土は含まない　（遺物取上げは「SD01 1 層」）
38　黄褐色粘土質シルト (2.5Y5/3)　ごく少量の黄褐色粘土ブロックを含む
（遺物取上げは「SD01 2 層」）
39　暗灰黄色粘土質シルト (2.5Y5/2)　ごく少量の黄褐色粘土ブロックを含む
（遺物取上げは「SD01 2 層」）
40　褐灰色粘土 (10YR5/1)　ベタ付く。多量の礫・土器を含む　（遺物取上げは「SD01 3 層」）
41　灰黄色シルト質粘土 (2.5Y6/2)　ブロック土は含まない　（遺物取上げは「SD01 4 層」）
42　明黄褐色シルト質粘土 (2.5Y6/6)　砂を含み、しまり悪い　（SD03）
43　にぶい黄色粘土質シルト (2.5Y6/3)　多量の焼（粘）土塊を含む　（SK02）
44　暗灰黄色砂質シルト (2.5Y5/2)　焼土塊は含まない　（SK02）
45　灰黄褐色粘土質シルト (10YR4/2)　多量の黄褐色粘土ブロックを含む　（SH07）
46　灰黄褐色粘土質シルト (10YR5/2)　明黄褐色粘土ブロックを含む　（SH07）
46'　46 層よりやや暗い
48　暗灰黄色粘土質シルト (2.5Y5/2)　黄褐色粘土ブロックを含む　（SH07 壁溝）
49　暗灰黄色シルト質粘土 (2.5Y5/2)　多量の黄褐色粘土ブロックを含む　（SP130）
50　黄褐色シルト質粘土 (2.5Y5/4)　少量の暗黄褐色粘土ブロックを含む　（SP130）
51　黄灰色シルト質粘土 (2.5Y5/1)　多量の黄褐色粘土ブロックを含む　（SH07 下位の SH11）
52　褐灰色粘土質シルト (10YR5/1)　明黄褐色粘土ブロックを含む
53　オリーブ色砂質シルト (5Y5/4)　（造成土）
53'　灰色シルト質粘土 (7.5Y6/1)　（旧耕作土）
54　にぶい黄褐色シルト質粘土 (10YR6/4)　砂利を含む。Mn 沈着　（SX01）
55　にぶい黄色シルト質粘土 (2.5Y6/4)　黄褐色粘土ブロックを少量含む　（SX01）
56　にぶい黄褐色粘土質シルト (10YR5/4)　砂利を含む　（SX01）
57　黒褐色シルト質粘土 (10YR3/2)　Mn 沈着
58　暗灰黄色シルト質粘土 (2.5Y4/2)　黒味強い
59　にぶい黄色シルト質粘土 (2.5Y6/3)　淡黄色粘土ブロックを少量含む　（SD05）
60　黒褐色シルト質粘土 (10YR3/1)　黄褐色粘土ブロック・砂利を含む　（SD05）
61　褐灰色シルト質粘土 (10YR4/1)　砂利を含む　（SP76）
62　黒褐色シルト質粘土 (10YR3/1)　砂利を多く含む　（SP76）
63　黄灰色シルト質粘土 (2.5Y4/1)　暗黄褐色粘土ブロックを含む　（SH08）
64　灰黄褐色粘土質シルト (2.5Y3/1)　土器片を含む　（SH08）
66　黄褐色シルト質粘土 (2.5Y5/4)　（SH09）

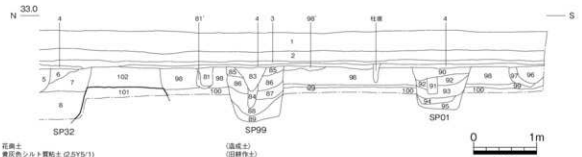
67　灰黄褐色砂質シルト (10YR5/2)　暗灰褐色粘土ブロックを含む　（SH09）
67'　67 層より粘土質がかる
68　黄灰色シルト質粘土 (2.5Y4/1)
69　黄褐色シルト (2.5Y5/3)　砂を含む
70　にぶい黄色砂質シルト (2.5Y6/3)　ごく少量の土器片を含む　（ベース土）
71　灰黄色粘土質シルト (2.5Y6/2)　（ベース土）
72　暗灰黄色シルト質砂 (2.5Y5/2)　（ベース土）
73　オリーブ黒色粘土質シルト (5Y3/1)　暗黄褐色粘土ブロックを少量含む　（SP130）
74　灰オリーブ色砂質シルト (5Y4/2)　小礫を含む
75　灰色砂質シルト (5Y4/1)　砂利を多く含む
76　灰オリーブ色粘土質シルト (5Y5/2)　黄褐色粘土ブロックを含む　（SH09ベッド状遺構）
77　黄灰色粘土質シルト (2.5Y4/1)　砂利を多く含む　（SH09 壁溝）
77'　黒味が強い　（SH09 壁溝）
82　暗灰黄色粘土質シルト (2.5Y5/2)　黒味がかる



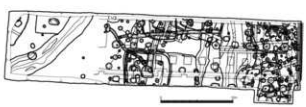
第 83 図　調査区北壁断面図

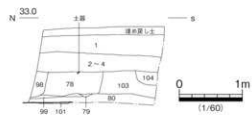


第 84 図　全体遺構配置図

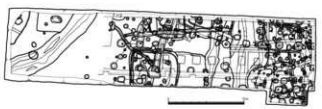


1　花崗土　(造成土)
2　黄灰色シルト質粘土 (2.5Y5/1)　(旧耕作土)
3　灰黄色粘土質シルト (2.5Y6/2)　多量の Mn 沈着　(旧床土)
4　黒褐色シルト質粘土 (2.5Y3/2)　ごく多量の Mn 沈着　(包含層)
5　にぶい黄色粘土質シルト (2.5Y6/4)　砂利を含む
6　暗灰黄色シルト質粘土 (2.5Y4/2)　暗褐色粘土ブロックを含む
7　灰黄褐色粘土質シルト (2.5Y6/2)　少量の黄褐色粘土ブロックを含む
8　黄褐色粘土質シルト (2.5Y5/3)　少量の暗黄褐色粘土ブロックを含む
81　暗灰色シルト質粘土 (10YR5/1)
81'　81 層より暗い
83　明黄褐色シルト質粘土 (2.5Y6/6)　多量の暗灰褐色粘土ブロックを含む。しまりよい　(SP99 抜き取り面)
84　灰黄色シルト (2.5Y6/2)　やや しまり悪い　(SP99 柱痕)
85　暗灰黄色粘土質シルト (2.5Y5/2)　暗褐色粘土ブロックを多く含む　(SP99 裏込め)
86　黄灰色粘土質シルト (2.5Y4/1)　暗黄褐色粘土ブロックを多く含む　(SP99 裏込め)
87　暗灰黄色粘土質シルト (2.5Y4/2)　黄褐色粘土ブロックを少量含む　(SP99 裏込め)
88　灰オリーブ色粘土質シルト (5Y5/2)　暗黄褐色粘土ブロックを含む　(SP99 裏込め)
89　褐灰色粘土質シルト (10YR4/1)　多量の暗黄褐色粘土ブロックを含む　(SP99 裏込め)
90　灰黄褐色粘土質シルト (10YR4/2)　少量の黄褐色粘土ブロックを含む　(SP01)
91　明黄褐色シルト質粘土 (2.5Y6/6)　灰色粘土ブロックを含む　(SP01 柱痕)
92　褐灰色粘土質シルト (10YR4/1)　暗黄褐色粘土ブロックを含む　(SP01 裏込め)
93　暗灰黄色粘土質シルト (2.5Y5/2)　暗黄褐色粘土ブロックを含む　(SP01 裏込め)
94　黄灰色粘土質シルト (2.5Y4/1)　多量の暗黄褐色粘土ブロックを含む　(SP01 裏込め)
95　明黄褐色粘土質シルト (2.5Y6/6)　灰褐色粘土ブロックを含む　(SP01 裏込め)
96　明黄褐色シルト質粘土 (2.5Y6/8)　暗灰色粘土ブロックを含む
97　暗灰黄色シルト質粘土 (2.5Y4/2)　暗黄褐色粘土ブロックを少量含む
98　黄褐色粘土質シルト (2.5Y5/3)　少量の炭を含む　(SH03)
98'　98 層より暗い　(SH03)
99　暗灰黄色シルト質粘土 (2.5Y4/2)　多量の焼土・炭化物　(SH03)
100　黄灰色粘土質シルト (2.5Y4/1)　(SH03)
101　灰黄色砂質シルト (2.5Y6/2)　(ベース土)
102　灰黄褐色シルト質粘土 (10YR5/2)　暗黄色粘土ブロックを少量含む

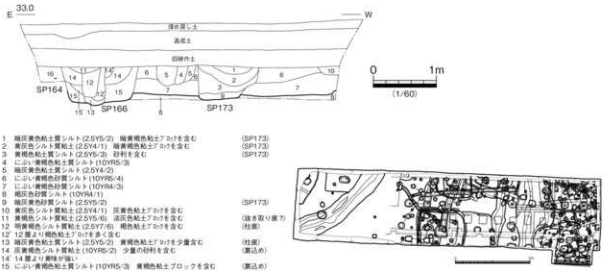




1　花崗土　(造成土)
2　黄灰色シルト質粘土 (2.5Y5/1)　(旧耕作土)
3　灰黄色粘土質シルト (2.5Y6/2)　多量の Mn 沈着　(旧床土)
4　黒褐色シルト質粘土 (2.5Y3/2)　ごく多量の Mn 沈着　(包含層)
78　灰黄褐色シルト質粘土 (10YR4/2)
79　黒褐色シルト質粘土 (2.5Y5/4)
80　灰黄褐色粘土質シルト (10YR4/2)　灰黄色砂質シルト地山ブロックを多く含む　(SH02ベット)
98　黒褐色粘土質シルト (2.5Y5/3)　少量の炭を含む
99　暗灰黄色シルト質粘土 (2.5Y4/2)　多量の焼土・炭を含む
101　灰黄色砂質シルト (2.5Y6/2)　(ベース土)
103　にぶい黄褐色砂質シルト (10YR4/3)
104　黒褐色シルト質粘土 (10YR3/3)　土器片を含む　(SP164)



第 85 図　調査区東壁断面図

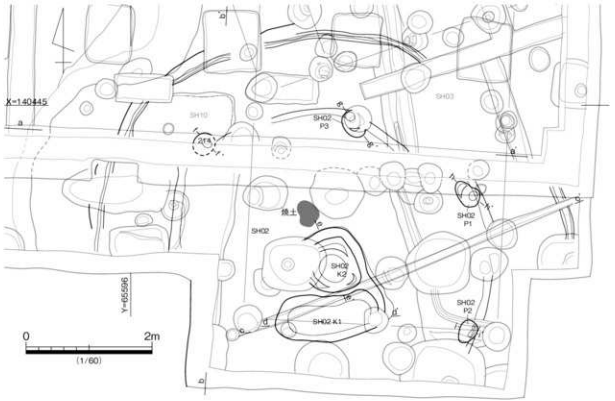


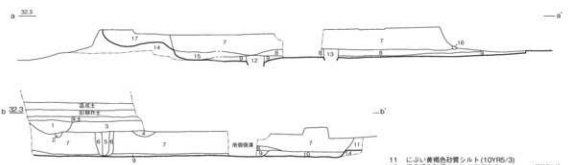
第 86 図　調査区南壁断面図

SH03(第 90・91 図)

SH02 より新しく、SH01 より古い。平面形は不明確であるが、方形と考えられる。主柱穴は明確ではない。壁溝がある。中央土坑は検出されていない。床面には炭化材が多数分布しており、放射状に分布する傾向がみられることから焼失家屋と考えられる。建物の南北の距離は約 8 m あり、当時期の建物としてやや大きすぎる。西側壁溝には食い違い部分が見られることから二つの建物跡が重なっているのかもしれない。また炭化材の分布もこの壁溝の食い違い部分から北側であることからその可能性は大きい。炭化材のうち 1 点の樹種同定を委託した。

出土遺物は弥生土器がほとんどで、34 ～ 36 が床面直上から出土した。36 は、不明の焼土状の遺物で、わらの圧痕が見られる。土器の破片あるいは建物跡の土屋根等の破片の可能性がある。37 は、ピット P1 から出土した。38 ～ 40 は埋土上層から出土した。41 ～ 50 は出土層位が明確でないものである。50 は縄文時代後期の土器と考えられる。弥生土器は小型の鉢が出土していることから、弥生時代終末期の時期と考えられる。



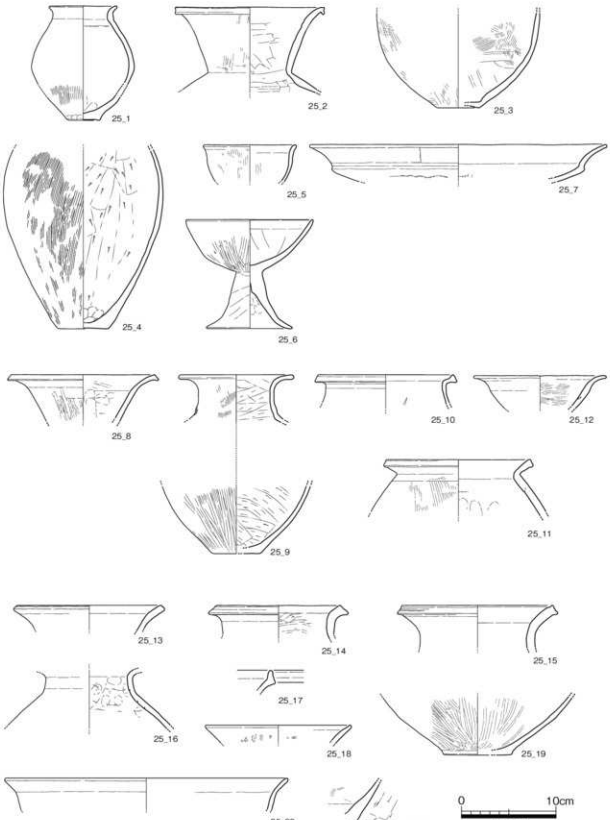


1　黄灰色シルト質粘土 (2.5Y4/1)　(SP18③)
2　黒褐色粘土質シルト (2.5Y3/1)　(SP18③)
3　暗灰黄色粘土質シルト (2.5Y5/2)　(SH10)
4　褐色砂質シルト (10YR4/4)　(SP17⑧)
5　黒褐色粘土質シルト (10YR3/2)
6　灰黄褐色砂質シルト (10YR4/2)
7　にぶい黄褐色砂質シルト (10YR4/3)　(SH02)
8　褐色砂質シルト (10YR4/4)　(SH02)
9　褐灰色砂質シルト (10YR4/1)　(貼床)
10　にぶい黄褐色砂質シルト (10YR5/4)　(ﾋﾟｯﾄ下)
11　にぶい黄褐色砂質シルト (10YR5/3)
12　灰黄褐色砂質シルト (10YR5/2)　(SP21④)
13　黒褐色粘土質シルト (10YR3/2)　(SP21③)
14　黄褐色粘土質シルト (10YR5/6)　(ﾋﾟｯﾄ土)
15　灰黄褐色粘土質シルト (10YR4/2)　(SH02)
16　暗オリーブ褐色粘土質シルト (5Y4/4)　(SH03 壁溝)
17　黄褐色粘土質シルト (2.5Y5/3)

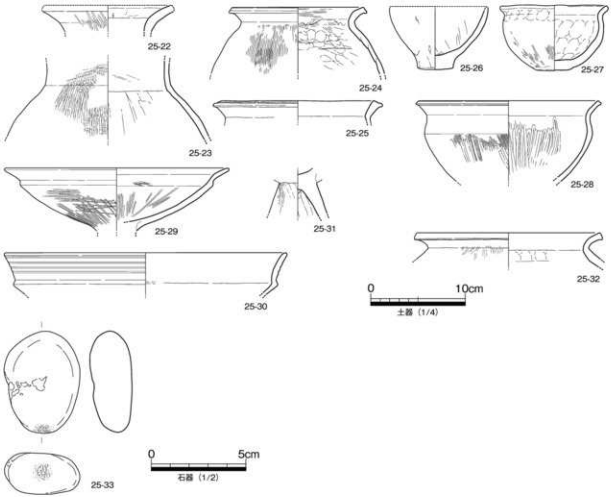
1　暗褐色砂質シルト (10YR3/3)　(K1)
2　暗赤褐色シルト質粘土 (5YR3/4)　(K1)
3　にぶい黄褐色砂質シルト (10YR5/3)　(K1)
4　黒色シルト質粘土 (炭)　(K1)
5　黒色シルト質粘土 (5Y2/1)　(K1)
6　オリーブ褐色砂質シルト (2.5Y4/4)　(貼床)
7　オリーブ褐色砂質シルト (2.5Y4/3)　(ﾋﾟｯﾄ状遺構)
8　黄褐色砂質シルト (2.5Y5/4)　(ﾋﾟｯﾄ状遺構)

1　暗褐色砂質シルト (10YR3/3)
2　黒色シルト質粘土 (炭)
1　黒褐色砂質シルト (10YR3/2)
2　黒色砂質シルト (10YR2/1)

第 87 図　SH02 平・断面図



第 88 図　SH02 遺物実測図 1

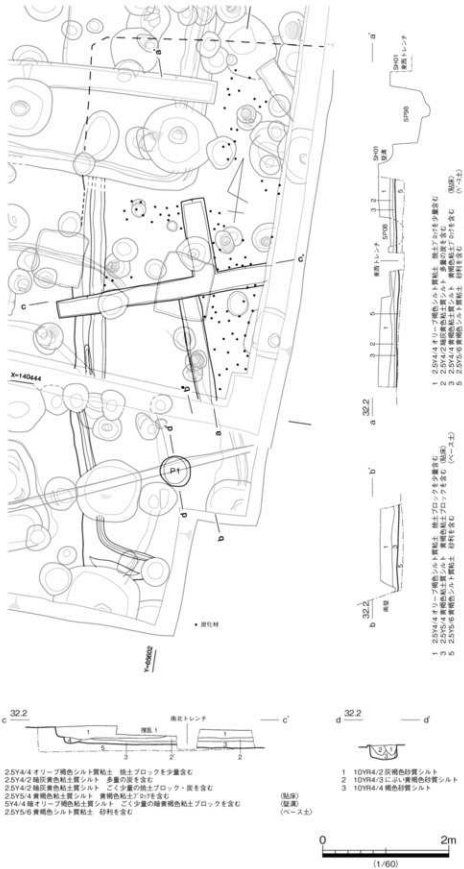


第 89 図　SH02 遺物実測図 2

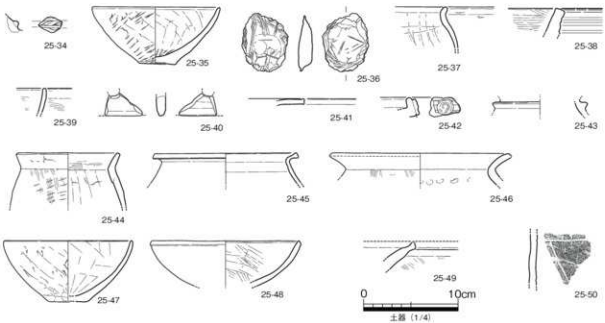
SH04（第 92 ～ 96 図）

SD04 及び SD06 より古い。平面形は方形である。主軸方向はほぼ座標北である。壁溝、4 主柱穴、中央土坑、ベッド状遺構を持つ。中央土坑は、北側に深いピット状の掘り込みがあり、南側が浅く炭化物が底面に堆積する土坑となっている。ほぼ中央には強く熱を受けた部分が見られる。

出土遺物は、弥生土器及び石器がある。51 ～ 55 は貼床層から出土した。56 ～ 58 はベッド状遺構から出土した。59 は壁溝から出土した。60 は床面から出土した。61 ～ 67 はベッド状遺構上面から出土したと考えられるものである。68・69 は中央土坑 K1 から出土した。70・71 は主柱穴 P5 から出土した。72 ～ 81 は埋土下層から出土した。82 ～ 120 は埋土上層から出土した。121 ～ 124 は出土層位不明のものである。125 は縄文時代後期の土器である。126 は安山岩の脈岩製の叩き石である。127 ～ 130 は調査区南側側溝掘削時に出土したものであるが、出土位置から SH04 に帰属すると考えられるものである。



第 90 図　SH03 平・断面図



第 91 図　SH03 遺物実測図

SH05（第 97 図）

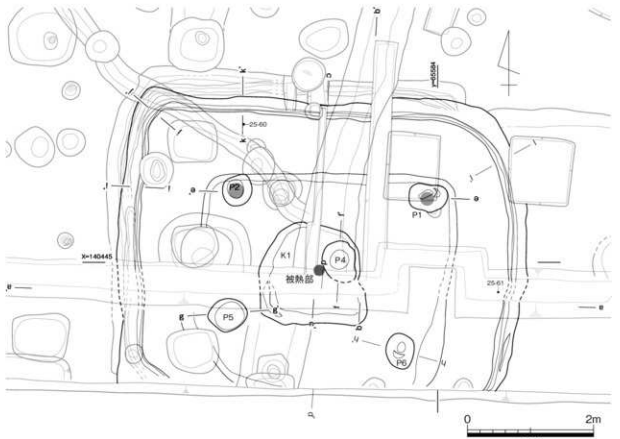
平面形が方形と考えられる遺構の北辺のみを検出した。SH04 より古い。SH の遺構記号をつけているが、主柱穴、中央土坑等の施設は存在しないことから、建物跡かどうかは疑問である。壁溝は土層観察用畦の部分で記録されているが、明確ではない。弥生土器小片が少量出土しているのみで、実測可能遺物は無い。

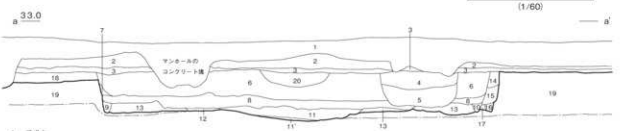
SH06（第 98 図）

SH04 より古い。平面形が方形の竪穴建物と考えられる。SH04 とほぼ同じ位置、同じ方向であることから、SH04 の前身（改築前など）の可能性がある。主柱穴、中央土坑は明確ではない。P2 は柱痕が見られる柱穴であるが、平面位置としては SH06 の主柱穴とは考え難いが、SH04 より下層で検出された。壁溝は明確である。遺物は弥生土器小片が出土している。131 ～ 135 は埋土から出土した弥生土器である。136 は柱穴 P2 の柱痕から出土した土器である。

SH08（第 99・100 図）

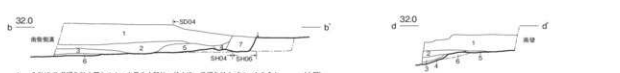
平面形が方形である。壁溝がある。主柱穴及び中央土坑は検出されていない。主軸方位は　N18° E である。SH09 より新しく、SH07 より古い。弥生土器が 18 ℓ 入りコンテナ 4 箱分出土している。137 ～ 162 は埋土から出土した弥生土器である。148 は壁溝から出土した破片と接合している。163 は 7 世紀代の土師器杯である。後世の混入品と考えられる。





1 盛成土 (旧耕作土)
2 7.5Y7/1 灰白色粘土質シルト 少量の Mn 沈着、土器片を含む (中世遺構面ベース土)
3 7.5YR5/3 にぶい褐色シルト 少量の Mn 沈着 (SK03)
4 7.5YR4/2 灰褐色粘土質シルト Mn 沈着 (SK03)
5 10YR6/2 灰黄褐色シルト質粘土 砂利を多く含む (SK03)
6 2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルト 少量の土器片・焼土塊
・黄褐色粘土ブロックを含む (SH04 上層)
7 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト (SH04 上層)
8 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土質シルト 少量の炭を含む SH04 K1 付近 (SH04 下層)
9 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト質粘土 (SH04 壁溝)
10 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト質粘土 (SH04 壁溝)
11 5Y4/1 灰色シルト質粘土 焼土・炭を含む (SH04 K1)
11' 5Y4/1 灰色シルト質粘土 (SH04 K1)
12 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト質粘土 少量の黄褐色粘土ブロックを含む (SH04 貼床)
13 2.5Y7/2 灰黄色シルト質粘土 ややラミイ化、少量の黄褐色粘土ブロックを含む (SH04 貼床・ベッド状遺構)
14 2.5Y5/4 黄褐色シルト質粘土 (SH06)
15 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト質粘土 (SH06)
16 2.5Y4/6 オリーブ褐色シルト質粘土 暗褐色粘土ブロックを含む (SH06 壁溝)
17 2.5Y5/6 黄褐色粘土質シルト やや黄味がかる (SH06 貼床)
18 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト (SH05)
19 2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルト 砂利を含み、砂質気味 (弥生～古墳時代遺構面ベース土)
20 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト質粘土 多量の土器片を含む、やや黒色がかる (SD04)

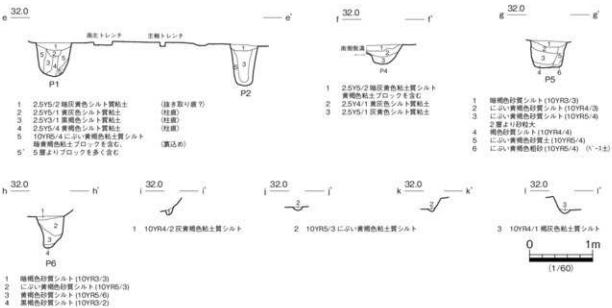
1 2.5Y5/2 暗灰黄色粘土質シルト 多量の炭・少量の焼土を含む (中央土坑 K1)
2 2.5Y6/2 灰黄色粘土質シルト 少量の暗黄褐色粘土ブロックを含む (貼床・ベッド状遺構)
3 10YR5/2 灰黄褐色粘土質シルト ごく少量の黄褐色粘土ブロックを含む (壁溝)



1 2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルト 少量の土器片・焼土塊・黄褐色粘土ブロックを含む (上層)
2 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土質シルト 少量の黄褐色粘土ブロックを含む (下層)
3 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト質粘土 ごく少量の黄褐色粘土ブロックを含む (下層)
4 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト ごく少量の黄褐色粘土ブロックを含む (壁溝)
5 2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト 炭粒・黄褐色粘土ブロックを含む (ベッド状遺構)
6 2.5Y6/2 灰黄色シルト質粘土 黄褐色粘土ブロックを含む (貼床)
7 2.5Y3/1 黒褐色粘土質シルト (SH06)

1 2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルト
2 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土質シルト
3 2.5Y5/2 暗灰黄色粘土質シルト
4 2.5Y2/1 黒色シルト質粘土 (炭化物層)
5 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト質粘土
6 10YR5/4 にぶい黄褐色礫混じりシルト (地山)

第 92 図　SH04 平・断面図

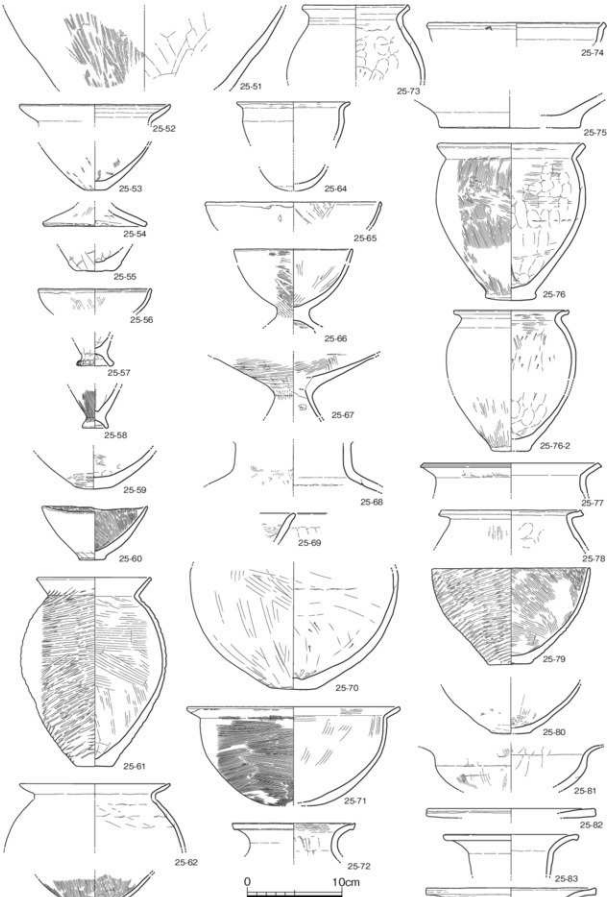


第 93 図　SH04 断面図 2

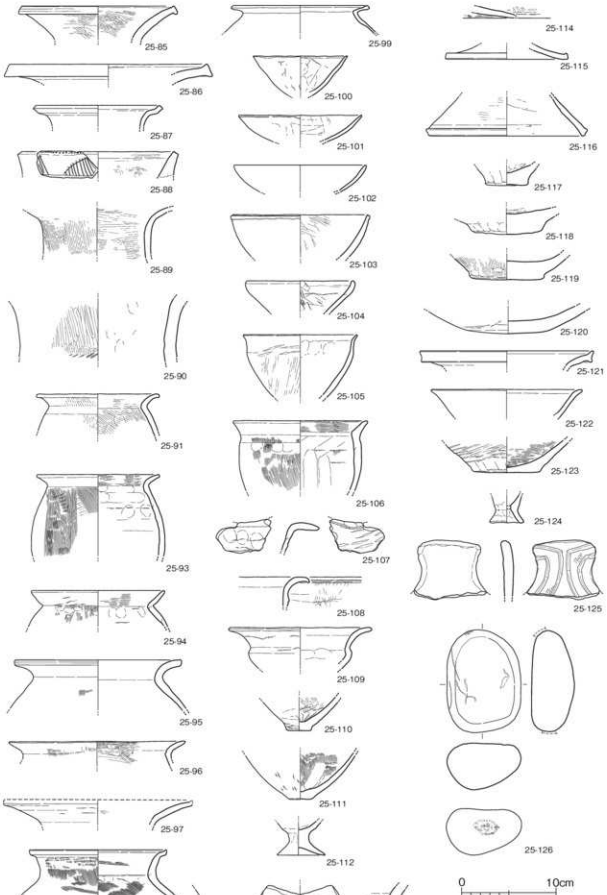
SH09(第 101 ～ 103 図)

SH08 より古い。平面形は方形である。ベッド状遺構（南辺には無い）、主柱穴、中央土坑、壁溝がある。主軸方位はほぼ座標北方向である。床面中央土坑の横には台石と考えられる石器がある。中央土坑から台石にかけては被熱部分が見られる。東西方向の土層断面は、第 83 図調査区北壁断面図を参照。

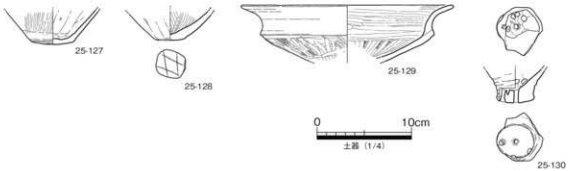
出土遺物は、弥生土器が 18 ℓ 入りコンテナ 3 箱分出土している。南壁付近を中心に床面直上で完形に近い土器が出土している。164 ～ 185 は床面直上で出土した。このうち 168 は SH08 南北トレンチ出土となっているが、出土した位置は SH08 より南側で SH09 に属する。186 は中央土坑 K1 から出土した。187 はピット P3 から出土した。188・189 はベッド状遺構の内側の埋土から出土した。190 ～ 192 は埋土上層から出土した。193 ～ 201 は出土層位不明の土器である。202 は中央土坑北側で検出した台石である。上面が磨滅している。



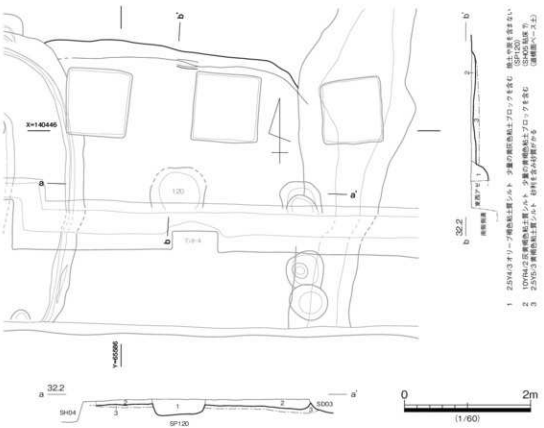
第 94 図　SH04 遺物実測図 1



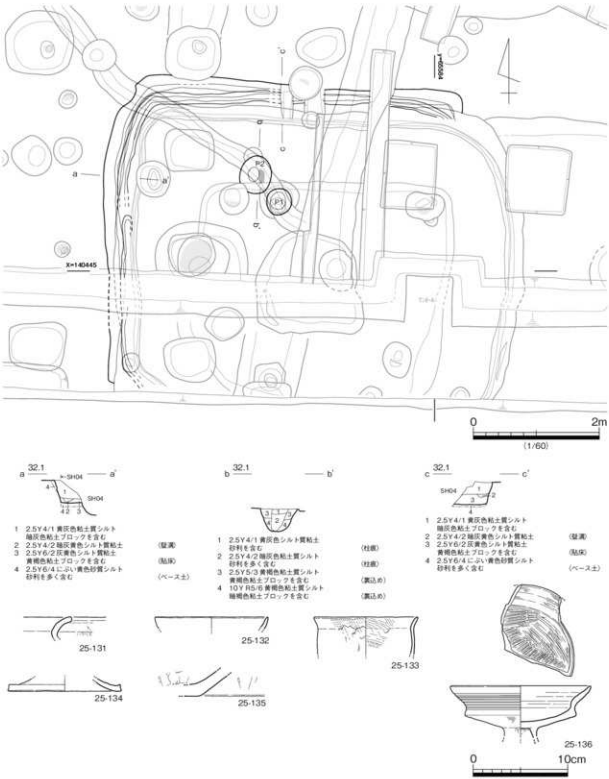
第95図　SH04遺物実測図2



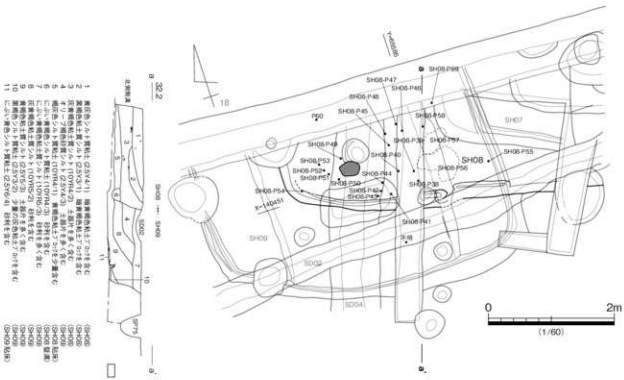
第 96 図　SH04 遺物実測図 3



第 97 図　SH05 平・断面図



第 98 図　SH06 平・断面図、遺物実測図



第 99 図　SH08 平・断面図

SH12（第 104 図）

平面形が方形と考えられる浅い遺構である。主軸方位は N28° E である。弥生時代の土器棺と考えられる SP205 より古い。主柱穴、壁溝は検出できなかった。K1 は炭化物を含む浅い遺構であることから中央土坑と考えられる。弥生土器小片が少量出土している。203・204 は埋土から出土した。205 は中央土坑 K1 から出土した。

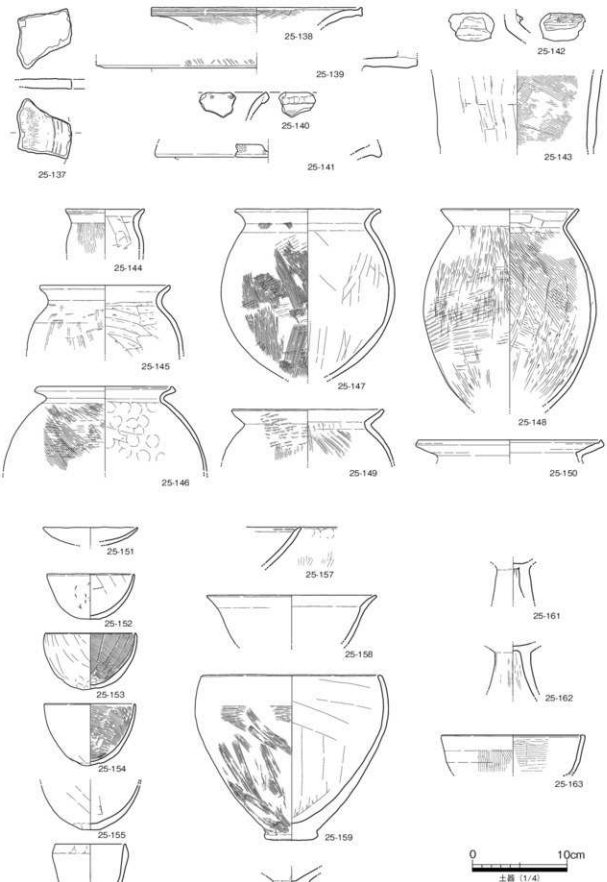
SH13（第 105 図）

平面形が方形として記録されているが、写真では平面形は明確ではない。主柱穴は明確ではなく、壁溝は無い。K1 は炭化物を含むことから中央土坑の可能性がある。出土遺物は弥生土器の小片がわずかに出土している。206 は土坑 K1 から出土した。

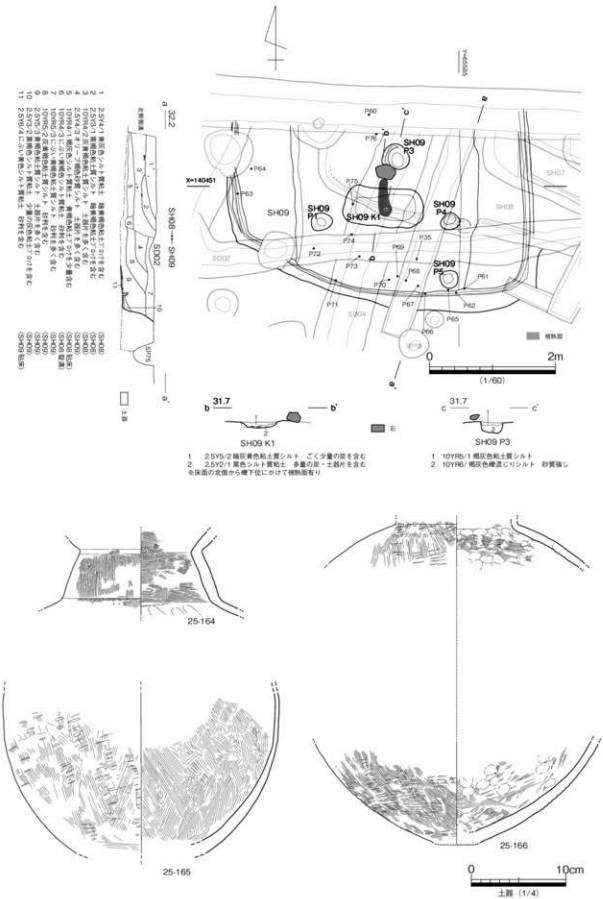
土器棺

SP205（E1-18）（第 106 図）

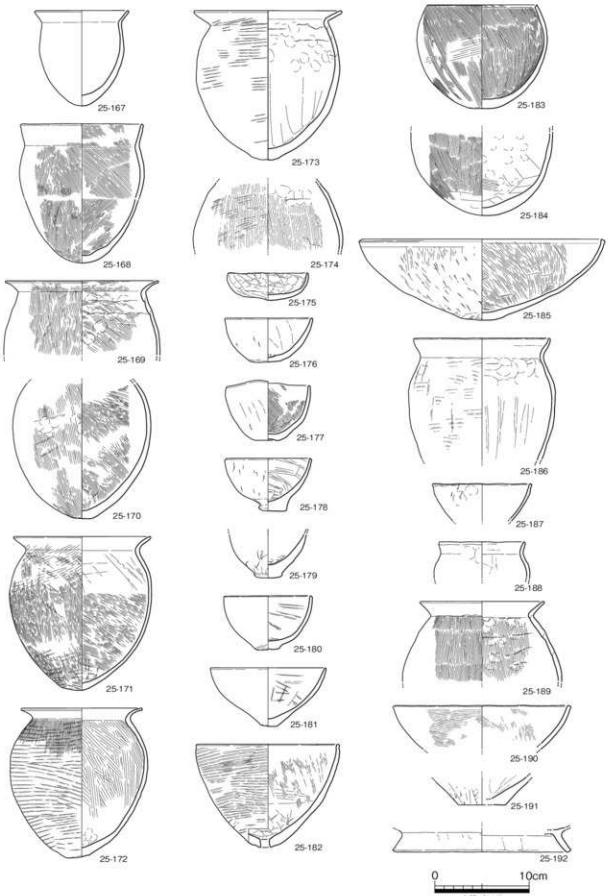
大型の弥生土器壺 207 が出土している。直径約 1 mのほぼ円形の掘方であることから、土器棺の可能性が大きい。



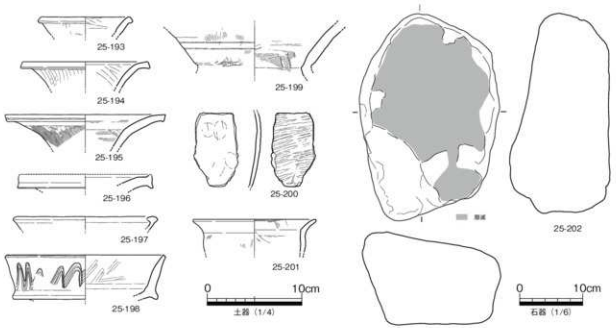
第100図　SH08遺物実測図



第 101 図　SH09 平・断面図、遺物実測図



第 102 図　SH09 遺物実測図 1

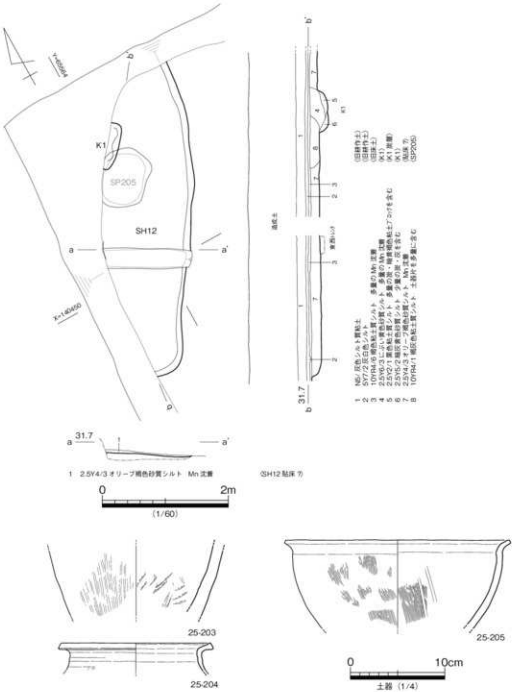


第 103 図　SH09 遺物実測図 2

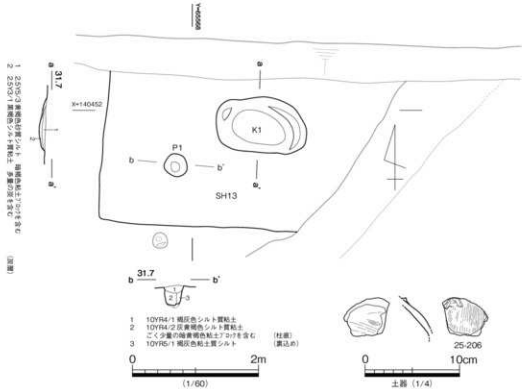
溝跡

SD06（第 107 図）

SH04 より新しく、SK04 より古い。北西方向へやや蛇行気味に伸びる。最大幅約 0.35 m、深さ約 0.15 mである。時期は明確ではないが、他の 7 世代の溝とは方向及び平面形も異なることから、弥生時代のものとして報告する。出土遺物は弥生土器のみである。208 ～ 210 が実測可能なものである。



第 104 図　SH12 平・断面図、遺物実測図



第 105 図　SH13 平・断面図、遺物実測図

（2）7 世紀

竪穴建物跡

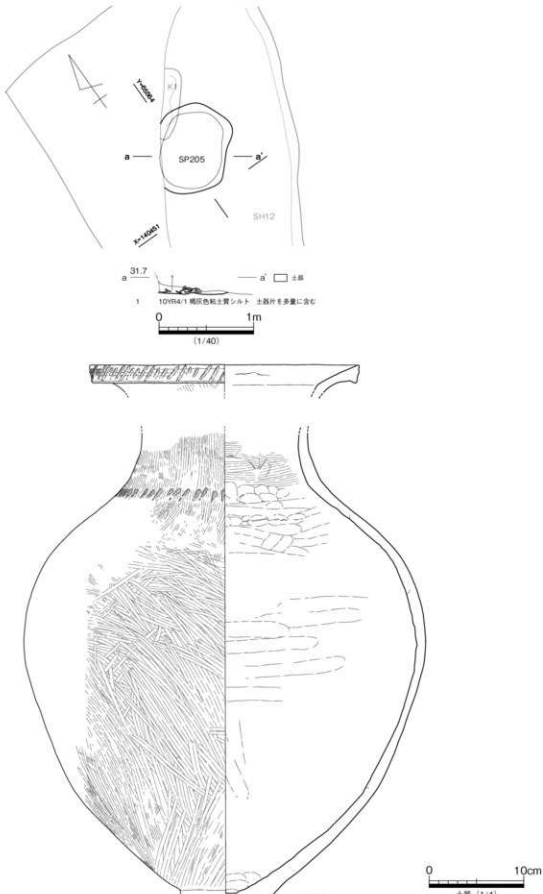
SH01（第 108･109 図）

北壁にカマドを持つ。主柱穴は 4 穴である。壁溝がある。主軸方位はほぼ座標北方向である。カマド袖は東側のみ検出した。西側は後世のピットで破壊されている。埋土から土師器、須恵器、弥生土器、縄文土器が出土している。211 は土師器杯である。212 ～ 217 は須恵器である。218・219 は縄文時代晩期突帯文土器である。220 ～ 224 は弥生土器である。SH01 の時期は、須恵器の年代より 7 世紀前半頃と考えられる。

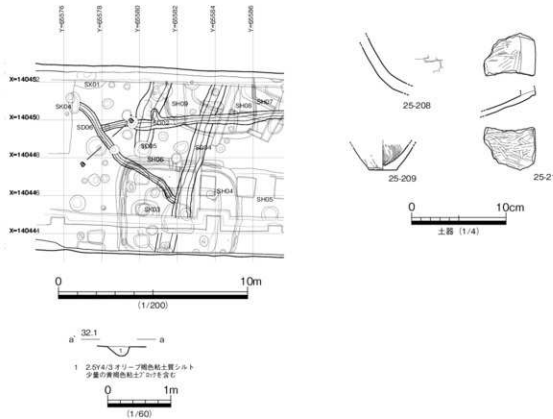
SH07（第 110･111 図）

平面形が方形である。壁溝を検出した。主柱穴は明確ではない。主軸方位は N23° E である。SH08、SH09 より新しい。

弥生土器、土師器、黒色土器 A 類及び須恵器が 18 ℓ 入りコンテナ 1 箱出土した。225 ～ 227 は貼床から出土したもので、225 は土師器、226 は黒色土器 A 類杯、227 は須恵器である。228・229 は床面付近で出土した須恵器で、228 は完形に近い。230 はピット P4 から出土した土師器カマド、231 は P7 から出土した須恵器である。232 ～ 239 は埋土から出土した須恵器である。240 は埋土から出土した弥生時代の銅鏃である。



第106図　SP205平・断面図、遺物実測図



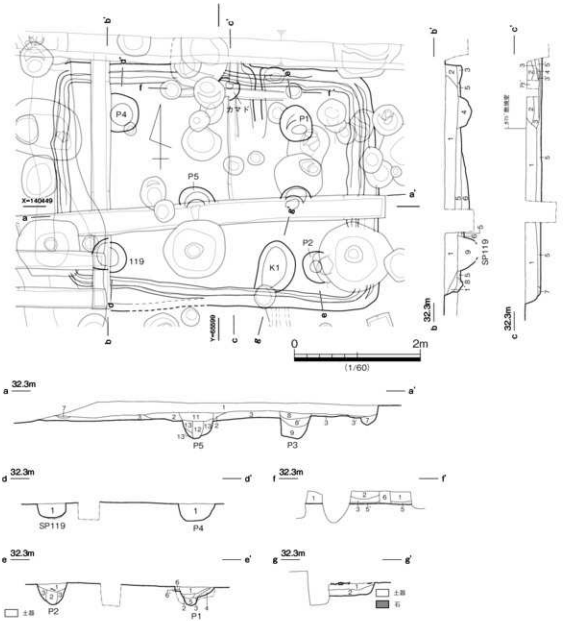
第 107 図　SD06 平・断面図、遺物実測図

SH11（第 110 図）

平面形が方形の浅い遺構である。SH07 床面の検出後に見つかっていることや方位が SH07 と揃うことから、SH07 のベッド状遺構の内側を検出したものの可能性がある。弥生土器小片が出土している。実測可能な遺物は無い。

SH10（第 112 図）

平面形が方形の浅い遺構である。主軸方位は、ほぼ座標北方向である。SH02 より新しく、SB04 より古い。主柱穴等の内部施設は検出されていないため、建物跡かどうかは不明である。埋土から須恵器 241・242 が出土している。



a-a'
1　10YR3/1 黒褐色粘土質シルト（土器片・暗黄褐色粘土ブロックを含む、上層）
2　10YR5/2 灰黄褐色粘土質シルト（暗黄褐色粘土ブロックを含む、貼床）
3　10YR4/1 褐灰色シルト質粘土（暗黄褐色粘土ブロックを含む、貼床）
3'　10YR4/1 褐灰色シルト質粘土
（暗黄褐色粘土ブロックを含む、貼床、3層よりブロック土が少ない）
7　2.5Y4/2 暗灰黄色シルト（極少量の黄褐色粘土ブロックを含む、壁溝）
8　2.5Y6/4 にぶい黄色粘土質シルト（黄灰色粘土ブロックを多く含む、SH01 P3）
8'　2.5Y6/4 にぶい黄色粘土質シルト（ブロック土を含まない、SH01 P3）
9　2.5Y4/2 暗灰黄色シルト（SH01 P3）
11　10YR5/2 灰黄褐色シルト質粘土（明黄褐色粘土ブロックを含む、SH01 P5）
12　10YR4/1 褐灰色シルト質粘土（やや暗い、SH01 P5 柱痕）
13　10YR5/3 にぶい黄褐色粘土質シルト（黄褐色粘土ブロックを含む、SH01 P5 裏込め）
13'　10YR5/3 にぶい黄褐色粘土質シルト
（13層より暗黄褐色粘土ブロックを多く含む、SH01 P5 裏込め）

c-c'　f-f'
1　10YR3/1 黒褐色粘土質シルト（土器片・暗黄褐色粘土ブロックを含む、上層）
2　2.5Y4/4 オリーブ褐色シルト質粘土（黄褐色粘土ブロックを多く含む、燃焼室内堆積土）
3　2.5Y4/2 暗灰黄色粘土質シルト
（黄褐色粘土ブロック・赤褐色粘土ブロックを含む、燃焼室内堆積土）
3'　7.5YR6/4 にぶい橙色粘土質シルト（多量の赤褐色粘土ブロックを含む、燃焼室内堆積土）
4　2.5Y3/2 黒褐色粘土質シルト（燃焼室内堆積土）
5　10YR5/2 灰黄褐色粘土質シルト（貼床）
5'　7.5YR7/4 にぶい橙色粘土質シルト（5層（貼床）の被熱・酸化層）
6　2.5Y6/4 にぶい黄色シルト質粘土（黄褐色粘土ブロックを少量含む、SH'ボ粘地）
7　10YR5/2 灰黄褐色粘土質シルト（壁溝）

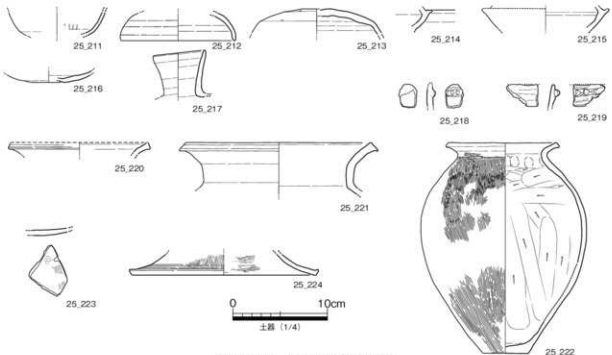
d-d'
1　10YR3/1 黒褐色粘土質シルト　少量の炭を含む

b-b'
1　10YR3/1 黒褐色粘土質シルト
（暗黄褐色粘土ブロック・土器片を含む、上層（東西トレンチ1層））
1'　10YR3/1 黒褐色粘土質シルト（1層よりやや暗い）
2　10YR4/1 褐灰色粘土質シルト（暗黄褐色粘土ブロックを含む）
3　10YR3/2 黒褐色粘土質シルト（少量の暗黄褐色粘土ブロックを含む、壁溝）
4　7.5YR3/1 黒褐色シルト質粘土（灰色粘土ブロック、暗黄褐色粘土ブロックを含む、SH01 P4）
5　2.5Y6/4 にぶい黄色粘土質シルト（多量の黄褐色粘土ブロックを含む、貼床（東西トレンチ3層））
6　2.5Y4/2 暗灰黄色粘土質シルト（暗黄褐色粘土ブロックを含む、ベース土（東西トレンチ4層））
8　10YR5/2 灰黄褐色粘土質シルト（壁溝）
9　10YR3/1 黒褐色粘土質シルト（SP119）

e-e'
[P1]
1　2.5Y3/2 黒褐色粘土質シルト（暗黄褐色粘土ブロックを含む、抜き取り痕）
2　10YR3/1 黒褐色粘土質シルト（黄褐色粘土ブロックを少量含む、抜き取り痕）
3　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト質粘土（少量の灰黄褐色粘土ブロックを含む、抜き取り痕）
4　2.5Y4/2 暗灰黄色シルト質粘土（黄褐色粘土ブロックを少量含む、抜き取り痕）
5　2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト質粘土（柱痕）
6　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト質粘土（SH01 貼床）
6'　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト質粘土（6層よりやや暗い、SH01 貼床）
[P2]
1　10YR4/1 褐灰色粘土質シルト（土器片を多く含む、抜き取り痕）
2　10YR4/2 灰黄褐色シルト質粘土（少量の暗黄色粘土ブロックを含む、柱痕）
3　2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト質粘土（灰褐色粘土ブロックを含む、裏込め）

g-g'
1　2.5Y5/3 黄褐色粘質シルト（多量の土器片を含む）
2　2.5Y5/2 暗灰黄色シルト（土器片を極少量含む）

第108図　SH01平・断面図



第 109 図　SH01 遺物実測図

掘立柱建物跡

SB04（第 113 ～ 115 図）

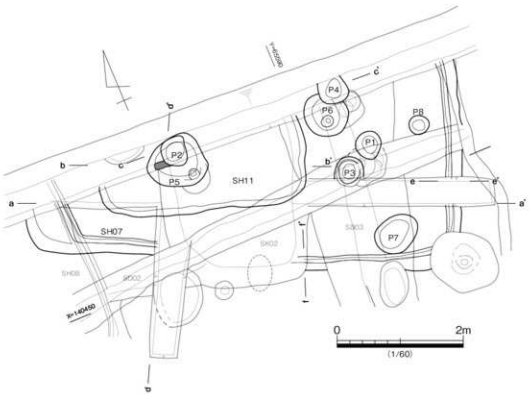
2 間× 5 間の大型建物である。桁行約 11.7 m、梁行約 5.7 mである。主軸方位は N88.5° W である。柱穴の平面形は方形を基調とする。柱痕は直径 20cm前後である。7 世紀代と考えられる SH01 よりは新しい。出土遺物は弥生土器、土師器、須恵器、鉄滓がある。243 は SP68 から出土した須恵器杯である。244・245 は SP71 から出土した須恵器である。246・247 は SP98 から出土した須恵器である。248 は SP169 から出土した須恵器壺である。出土遺物からは TK217 型式の時期と考えられる。

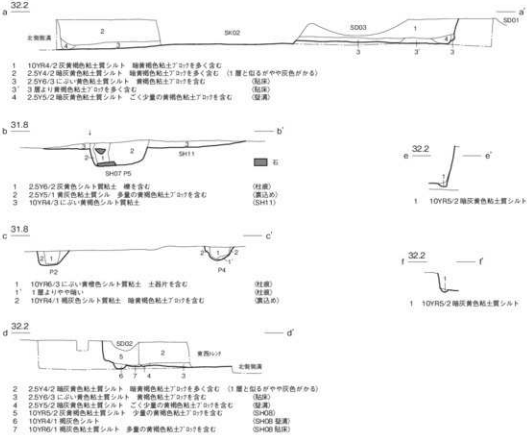
SB06（第 116 図）

柱穴 1 列分のみ検出した。南の SB04 の柱穴と規模がほぼ同じで、平面位置も SB04 と関連する規格的な配置である。柱穴平面形は方形を基調とする。桁行 3 間以上の東西棟の建物と考えられる。主軸方位は、約 N1° E である。7 世紀代と考えられる SH01 より新しい。断面図は第 83･85 図の北壁及び東壁断面図を参照。柱穴からは、弥生土器、土師器、須恵器小片が出土している。249 は、SP102 から出土した須恵器杯である。

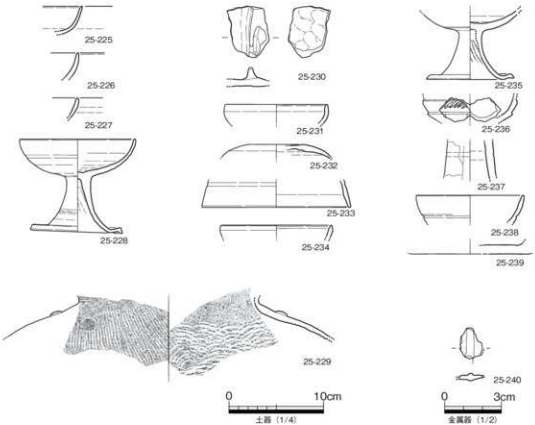
SB07（第 117 図）

SB04 と北辺の柱穴列が揃う。梁行 3 間（約 4.85 m）の東西棟の建物と考えられる。東西は 1 間分しか検出できなかったが、これは調査区西部の遺構検出面が東側に比べ、削平により約 0.7 m低くなっていることが原因と考えられる。柱穴平面形は方形を基調とする。主軸方位は、N88.4° W である。柱穴の規模及び配置から SB04 及び SB06 と関連のある建物跡と考えられる。柱穴からは弥生土器、土師器及び須恵器が出土している。250・251 は SP157 から出土した須恵器である。出土遺物から TK217 型式の時期と考えられる。





第 110 図　SH07・SH11 平・断面図



第 111 図　SH07 遺物実測図

土坑

SK02（C1-13）（第 118 図）

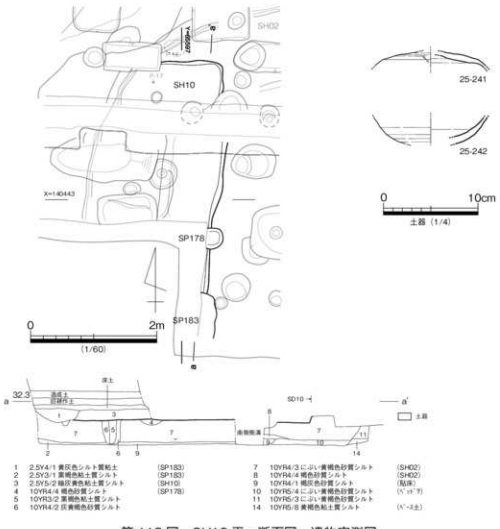
SH07 より新しく、SD02 より古い。平面形が長方形を呈する。短軸約 2.3 m、主軸 2.5 m以上、深さ約 0.4 mである。主軸方位は、SH07 と同方向である。弥生土器、土師器、須恵器が出土している。252・253 は下層から出土した須恵器である。254 ～ 258 は上層から出土したもので、254・255 は土師器、その他は須恵器である。

SK03（D1-24）（第 119 図）

SH04 より新しく、SB07 より古い。平面形が長方形と考えられ、壁面が垂直に近い箱型の土坑である。短軸約 1.5 m、長軸 1.3 m以上、深さ約 0.6 mの大型の土坑である。主軸は、ほぼ座標北方向である。弥生土器が出土している。実測可能な土器は、259 ～ 266 である。これらは下層にある SH04 に帰属する可能性がある。

SK04（E1-3）（第 120 図）

SH04 より新しい SD06 よりも新しい。埋土は粘土ブロックを多量に含むことから、埋め戻されたものと考えられる。弥生土器が出土している。実測可能なものは、267 ～ 269 である。



第 112 図　SH10 平・断面図、遺物実測図

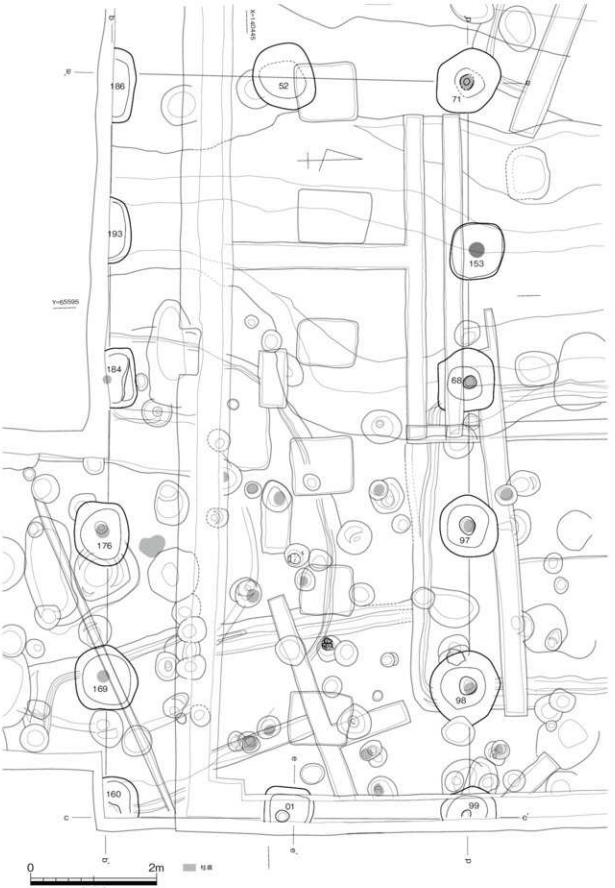
溝跡

SD04(第 121・122 図)

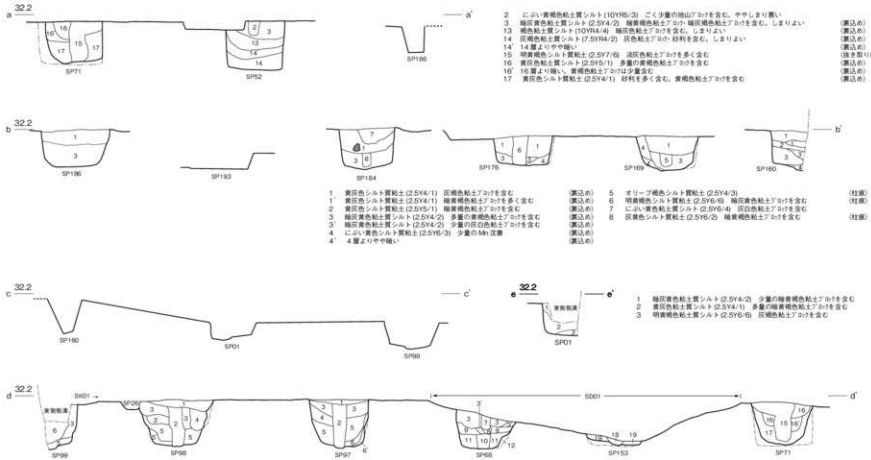
弥生時代の竪穴建物跡より新しい。座標北から東へやや振った方向である。上層から土器小片がまとまって出土している。弥生土器、土師器、須恵器が 18 ℓ 入りコンテナ２箱程度出土している。270 は土師器である。271 ～ 275 は須恵器である。

SD05(第 121・122 図)

SD04 とほぼ同じ方向であるが、SB07 の北側のみで検出されている。調査区北壁断面では、再掘削が観察される。SB07 及びその他のピットと重複しているが、新旧関係は不明確である。遺物は弥生土器、須恵器が出土している。実測可能なものは、276 の須恵器高杯のみである。



第 113 図　SB04 平面図



2 にぶい黄褐色粘土質シルト(10YR5/3) ごく少量の地山ブロックを含む。ややしまり悪い
3 暗灰黄色粘土質シルト(2.5Y4/2) 暗黄褐色粘土ブロック・暗灰褐色粘土ブロックを含む。しまりよい (裏込め)
13 褐色粘土質シルト(10YR4/4) 暗灰色粘土ブロックを含む。しまりよい (裏込め)
14 灰褐色粘土質シルト(7.5YR4/2) 灰色粘土ブロック・砂利を含む。しまりよい (裏込め)
14' 14層よりやや暗い (裏込め)
15 明黄褐色シルト質粘土(2.5Y7/6) 淡灰色粘土ブロックを多く含む (抜き取り痕・柱痕)
16 黄灰色粘土質シルト(2.5Y5/1) 多量の黄褐色粘土ブロックを含む (裏込め)
16' 16層より暗い。黄褐色粘土ブロックは少量含む (裏込め)
17 黄灰色シルト質粘土(2.5Y4/1) 砂利を多く含む。黄褐色粘土ブロックを含む (裏込め)

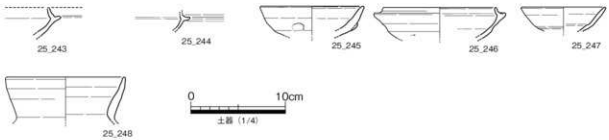
1 黄灰色シルト質粘土(2.5Y4/1) 灰褐色粘土ブロックを含む (裏込め)
1' 黄灰色シルト質粘土(2.5Y4/1) 暗黄褐色粘土ブロックを多く含む (裏込め)
2 黄灰色シルト質粘土(2.5Y5/1) 暗黄褐色粘土ブロックを含む (裏込め)
3 灰黄色粘土質シルト(2.5Y4/2) 多量の黄褐色粘土ブロックを含む (裏込め)
3' 暗灰黄色粘土質シルト(2.5Y4/2) 少量の灰白色粘土ブロックを含む (裏込め)
4 にぶい黄色シルト質粘土(2.5Y6/3) 少量の Mn 沈着 (裏込め)
4' 4層よりやや暗い (裏込め)
5 オリーブ褐色シルト質粘土(2.5Y4/3) (柱痕)
6 明黄褐色シルト質粘土(2.5Y6/6) 暗灰黄色粘土ブロックを含む (柱痕)
7 にぶい黄色粘土質シルト(2.5Y6/4) 灰白色粘土ブロックを含む
8 灰黄色シルト質粘土(2.5Y6/2) 暗黄褐色粘土ブロックを含む (柱痕)

1 暗灰黄色粘土質シルト(2.5Y4/2) 少量の暗黄褐色粘土ブロックを含む (裏込め)
2 黄灰色粘土質シルト(2.5Y4/1) 多量の暗黄褐色粘土ブロックを含む (裏込め)
3 明黄褐色粘土質シルト(2.5Y6/6) 灰褐色粘土ブロックを含む (裏込め)

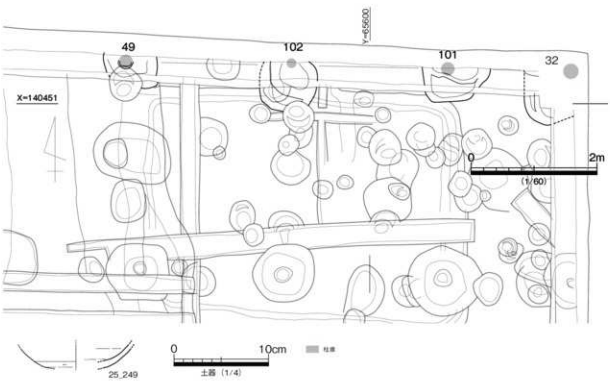
SP99, 98, 68, 153, 71
1 にぶい黄褐色粘土質シルト(10YR5/4) ごく少量の地山ブロックを含む。しまりよい
2 にぶい黄褐色粘土質シルト(10YR5/3) ごく少量の地山ブロックを含む。ややしまり悪い (柱痕)
3 暗灰黄色粘土質シルト(2.5Y4/2) 暗黄褐色粘土ブロック・暗灰褐色粘土ブロックを含む。しまりよい (裏込め)
3' 3層より暗灰褐色粘土ブロックを多く含む (裏込め)
4 灰黄褐色粘土質シルト(10YR5/2) 暗灰褐色粘土ブロックをごく少量含む。しまりよい (裏込め)
5 褐灰色粘土質シルト(10YR4/1) 多量の暗黄褐色粘土ブロックを含む。しまりよい (裏込め)
5' 5層よりやや暗く、Mn 沈着土
6 明黄褐色シルト質粘土(2.5Y6/6) 多量の暗灰褐色粘土ブロックを含む。しまりよい (裏込め)
7 明黄褐色粘土質シルト(2.5Y6/6) 灰味帯びる。ややしまり悪い (SP68 建替え後柱痕)
8 オリーブ黄色粘土質シルト(5Y3/1) 黄褐色粘土ブロックを含む。しまりよい (SP68 建替え後柱痕)
9 明黄褐色粘土質シルト(2.5Y7/6) 灰色粘土ブロックを多く含む。しまりよい (裏込め)
10 明黄褐色シルト質粘土(2.5Y6/8) 黄味が強い。灰色粘土ブロックをごく少量含む (SP68 建替え前柱穴 柱痕)
11 明黄褐色粘土質シルト(10YR6/6) 灰色粘土ブロックを多量に含む (SP68 建替え前柱穴 裏込め)
12 明黄褐色シルト質粘土(10YR6/8) 砂利を含む。とてもしまりよい (ハ'-ハ土)
15 明黄褐色シルト質粘土(2.5Y7/6) 淡灰色粘土ブロックを多く含む (抜き取り痕・柱痕)
16 黄灰色粘土質シルト(2.5Y5/1) 多量の黄褐色粘土ブロックを含む (裏込め)
16' 16層より暗い。黄褐色粘土ブロックは少量含む (裏込め)
17 黄灰色シルト質粘土(2.5Y4/1) 砂利を多く含む。黄褐色粘土ブロックを含む (裏込め)
18 黄灰色シルト質粘土(2.5Y4/1) 暗黄褐色粘土ブロックを含む (柱痕)
19 にぶい黄色シルト質粘土(2.5Y6/4) 灰味がかる (裏込め)

SP97
1 にぶい黄褐色粘土質シルト(10YR5/4) ごく少量の土器片を含む。しまりよい。ブロック土は含まない
2 にぶい黄褐色シルト(10YR5/3) 少量の土器片を含む。しまり悪い
ごく少量の暗黄褐色粘土ブロックを含む (柱痕)
3 暗灰黄色粘土質シルト(2.5Y4/2) ごく少量の土器片を含む。しまりよい
多量の暗黄褐色粘土ブロックを含む (裏込め)
4 褐灰色粘土質シルト(10YR4/1) ごく少量の土器片を含む。しまりよい
暗黄褐色粘土ブロックを含む (裏込め)
5 オリーブ褐色粘土質シルト(2.5Y4/3) 多量の暗黄褐色粘土ブロックを含む。しまりよい (裏込め)
6 黄灰色粘土質シルト(2.5Y4/1) ごく少量の暗黄褐色粘土ブロックを含む。しまりよい (裏込め)
6' 6層よりやや灰味が強い(2.5Y5/1)

第114図 SB04断面図



第 115 図　SB04 遺物実測図

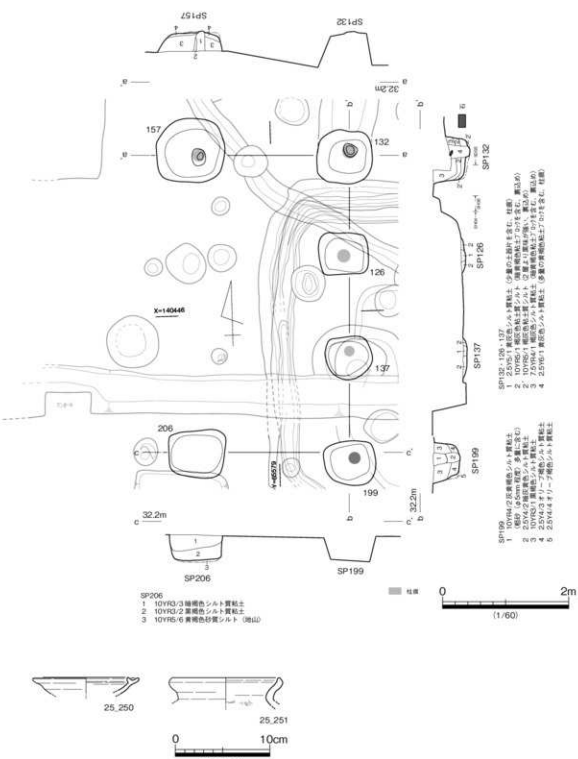


第 116 図　SB06 平・断面図、遺物実測図

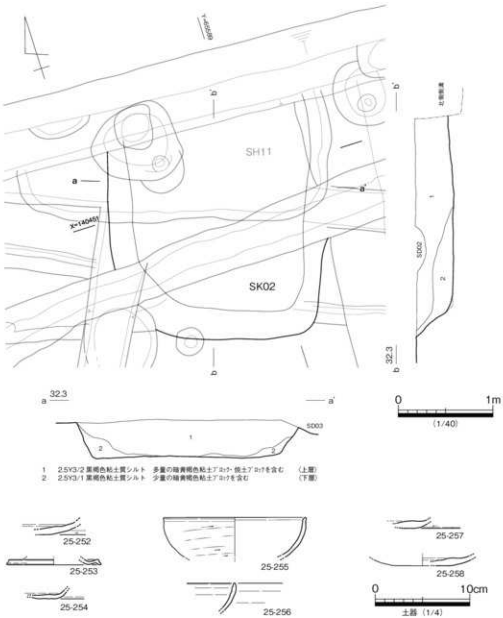
SD07（第 121・122 図）

検出幅約 3 m、深さ約 1 mの大型の溝跡である。調査区西側は東側に比べて少なくとも約 0.7 mの削平を受けていることから、本来はより大型の溝であったと考えられる。南西から北東方向への溝跡である。周囲の地形は南東から北西へ緩やかに下ることから、この溝は等高線に沿うように掘削されていると考えられる。埋土は砂質土と粘質土の互層となっており、流滞水を繰り返す環境下にあったと考えられる。断面からは、2 回程度の再掘削を受けているようにも見える。

弥生土器、須恵器、土師器等が 18 ℓ 入りコンテナ 3 箱程度出土している。277 ～ 290 は須恵器である。291・292 は土師器である。293 ～ 295 は弥生土器である。296 は縄文時代晩期の突帯文土器である。297 ～ 300 はサヌカイト製石器である。



第 117 図　SB07 平・断面図、遺物実測図



第 118 図　SK02 平・断面図、遺物実測図

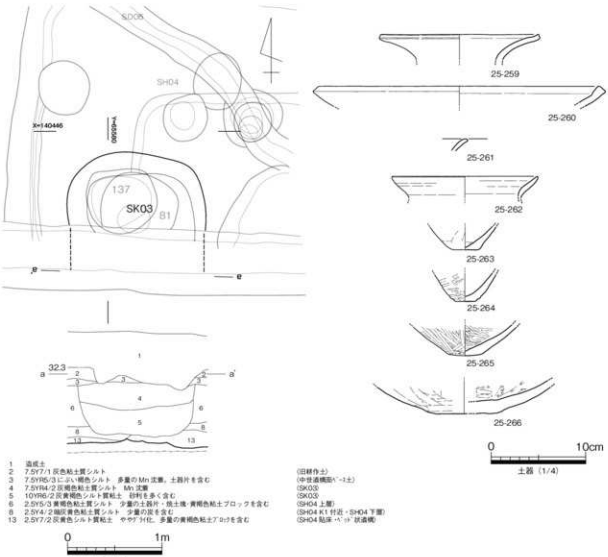
（3）古代

掘立柱建物跡

SB01（第 123 図）

2 間 × 4 間の建物跡である。桁行約 5.0 m、梁行約 3.7 mの規模である。主軸方位は、N70.8° E である。SP149 はその規模及び位置から SB01 を構成する柱穴ではないかもしれない。

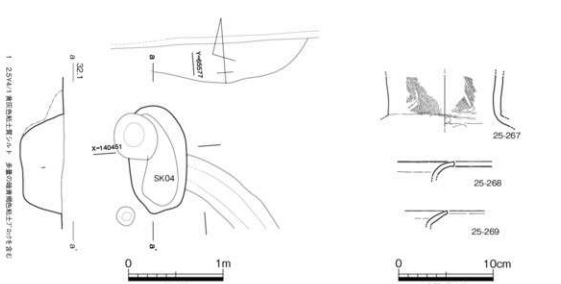
近隣遺構との新旧関係であるが、SP61 及び SP148 が中世の SB02 の柱穴 SP48 及び SP27 よりそれぞれ古い。これより中世の掘立柱建物跡より古いことがわかる。前述した 7 世紀の建物跡とは主軸方向が異なり、詳細な時期は不明であるが、古代の時期とする。



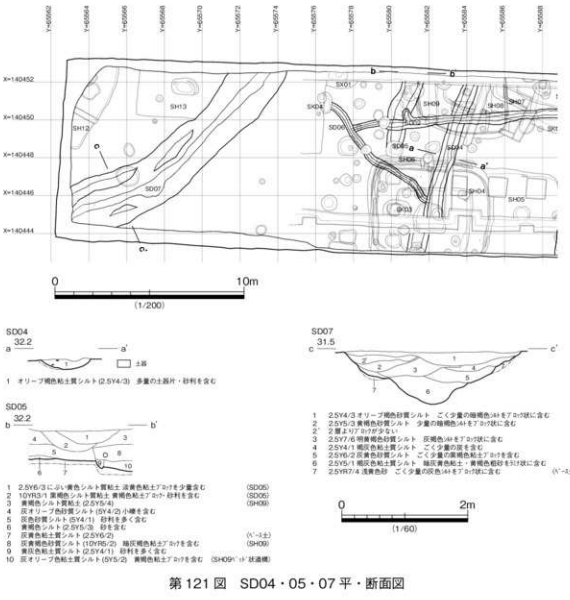
1　造成土
2　7.5Y7/1 灰色粘土質シルト
3　7.5YR5/3 にぶい褐色シルト　多量の Mn 沈着、土器片を含む
4　7.5YR4/2 灰褐色粘土質シルト　Mn 沈着
5　10YR6/2 灰黄褐色シルト質粘土　炭化物を多く含む
6　2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルト　少量の土器片・焼土塊・黄褐色粘土ブロックを含む
8　2.5Y4/2 暗灰黄色粘土質シルト　少量の炭を含む
13　2.5Y7/2 灰黄色シルト質粘土　やや硬い仕、多量の黄褐色粘土ブロックを含む

(旧耕作土)
(中世遺構面(ベース土))
(SK03)
(SK03)
(SH04 上層)
(SH04 K1 付近・SH04 下層)
(SH04 貼床・ベース状遺構)

第 119 図　SK03 平・断面図、遺物実測図

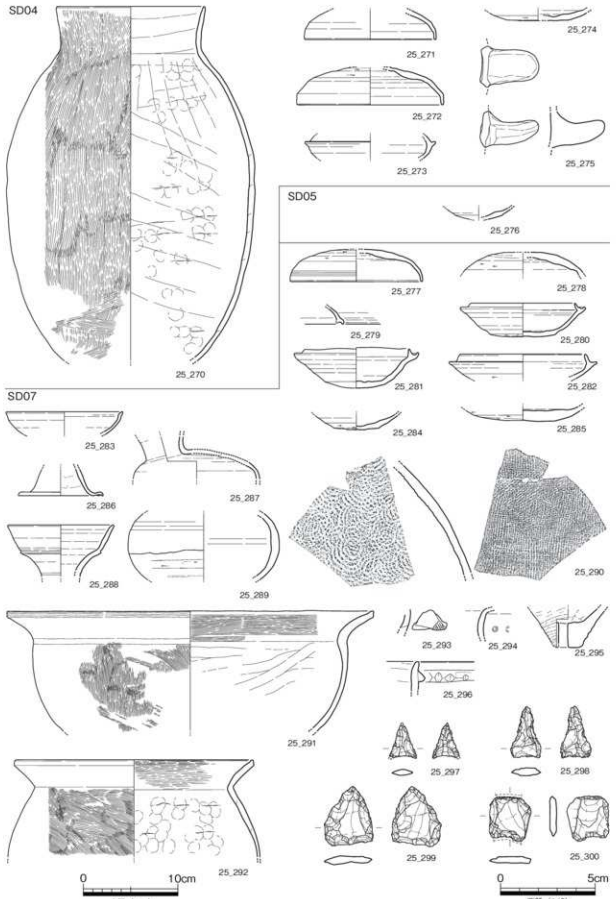


第 120 図　SK04 平・断面図、遺物実測図

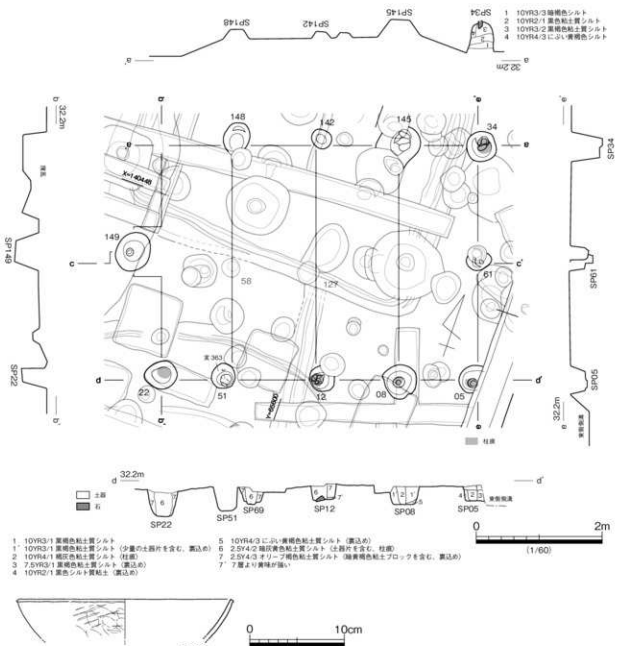


第 121 図　SD04・05・07 平・断面図

SP12 から弥生土器鉢 301 が出土している。また他の柱穴からも弥生土器、土師器、須恵器等の小片が出土している。当初は SP58 及び SP127 も含めて総柱建物跡と復元していたが、SP58 からは瓦器が出土していることから、この柱穴は SB01 を構成しないと考えられる。



第122図　SD04・05・07遺物実測図



第 123 図　SB01 平・断面図、遺物実測図

（4）中世

掘立柱建物跡

SB02（第 124 図）

2 間×4 間の建物跡である。南端の柱穴列とそのすぐ北側の柱穴の距離は、他と比べやや距離が開き、柱穴の大きさもやや異なるが、平面的な位置は規格性を持つ。桁行約 9.2 m、梁行約 4.0 mである。主軸方位は N3° E である。柱痕の直径は、いずれも 20cm未満である。弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、白磁等の小片が出土している。302 は SP162 から出土した中国産青磁である。

SB03(第125図)

1つの柱穴列のみ確認した。主軸方位は、N 80.5° W である。柱穴からは弥生土器、瓦器、中世の土師質土器皿等が出土している。303 は SP39 から出土した弥生土器壺である。304 は SP42 から出土した土師質土器皿である。

SB05（第126図）

L字状に柱穴列を検出した。主軸方位は、N34.9° E である。中世の溝跡 SD02 より新しい。弥生土器、土師質土器、須恵器等の小片が出土している。SP93 からは瓦器が出土している。実測可能な遺物はない。

土坑

SX01（E1-3）(第127図)

深さ約1mの大型の土坑である。埋土からは、須恵器、土師質土器、弥生土器が出土している。305 ～ 307 は土師質土器である。308 はふいごの羽口である。307 から 13 世紀後半以降の時期が考えられる。

溝跡

SD01（第128 ～ 133図）

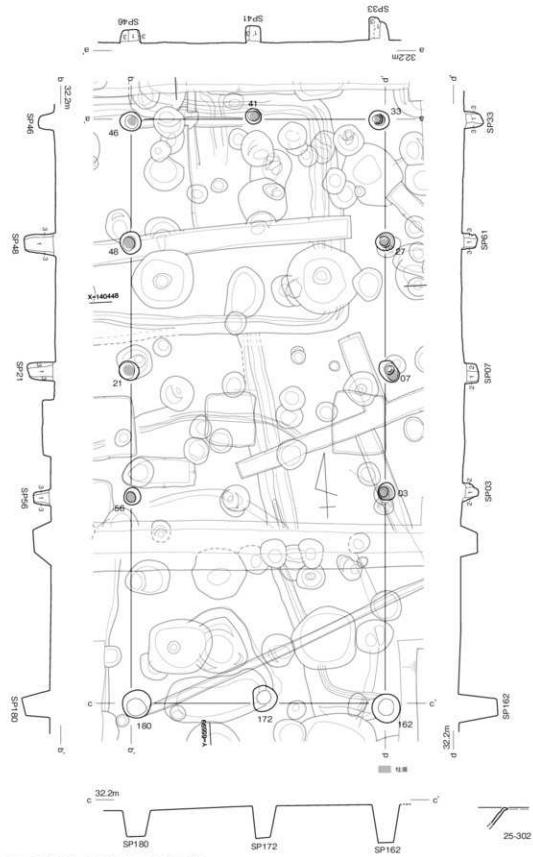
ほぼ座標北方向の溝跡である。検出幅最大約5m、深さは最深部で約 0.7 mの大型の溝である。底面付近で遺物や石がまとまって出土している。この溝より西側では当該期の遺構密度が小さく、この溝の東側に遺構が集中することから、この溝が区画施設的な性格を持っていたとも考えられる。

中国産陶磁、瓦器碗、土師器碗、黒色土器、須恵器、弥生土器及び瓦が 18ℓ 入りコンテナ計3箱出土している。遺物は、大きく「上層」「下層」「最下層」に分けて取り上げを行っている。1 ～ 4 層と「上層」「下層」「最下層」の関係は、第128図断面図を参照されたい。

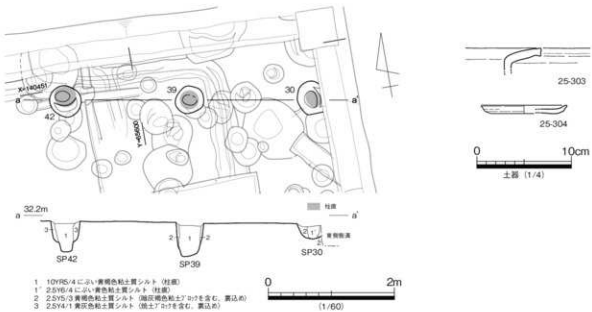
309 ～ 351 は「最下層」から出土した遺物である。309 ～ 340 は土師質土器である。341 ～ 345 は備前焼である。346 は常滑焼か。347・348 は中国産白磁椀である。349 ～ 351 は中国産青磁椀である。352 ～ 355 は、「下層」から出土した遺物で、352 ～ 354 は土師質土器、355 は備前焼である。356 ～ 361 は「上層」から出土した遺物で、356 ～ 360 は土師質土器、361 は中国産青磁である。362 はトレンチ掘削時に出土したもので、出土層位不明の中国産白磁皿である。15 世紀前半の年代が考えられる。363 は弥生土器器台か。364・365 は軒丸瓦である。366・367 は丸瓦である。368 ～ 370 は凝灰岩(長尾石)製で、368 は器種不明である。369 は宝塔の首部である。370 は五輪塔(火輪)あるいは笠塔婆の笠部である。遺構の時期は、備前焼 342、344、345 が備前焼分類Ⅳ B で 15 世紀頃の時期と考えられることから、当該期と考えられる。

※備前焼の分類については、『備前市埋蔵文化財調査報告 11　備前窯詳細分布調査報告書』岡山県備前市教育委員会 2013 を参考にした。

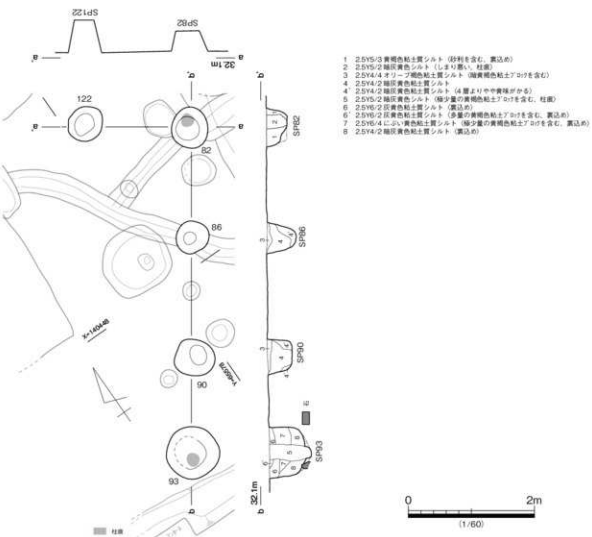
※石製品の器種・石材については大川広域行政組合松田氏に教示を得た。



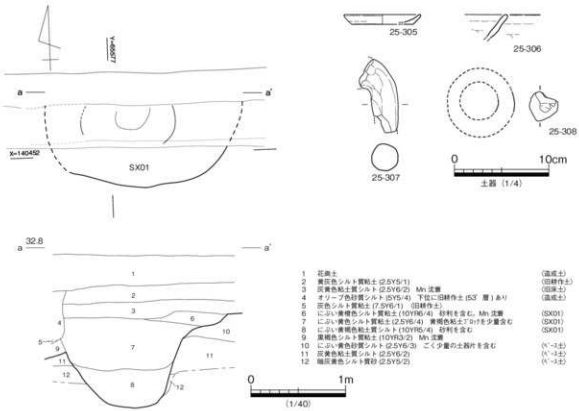
第 124 図　SB02 平・断面図、遺物実測図



第125図　SB03 平・断面図、遺物実測図



第126図　SB05 平・断面図



第 127 図　SX01 平・断面図、遺物実測図

SD02(第 128、134 図)

SD03 より新しい東西方向の溝跡である。最大幅約 0.6 m、深さ約 0.15 mである。土師質土器皿 371、同鍋 372、平瓦 373、直方体状を呈する焼土塊 374 が出土している。

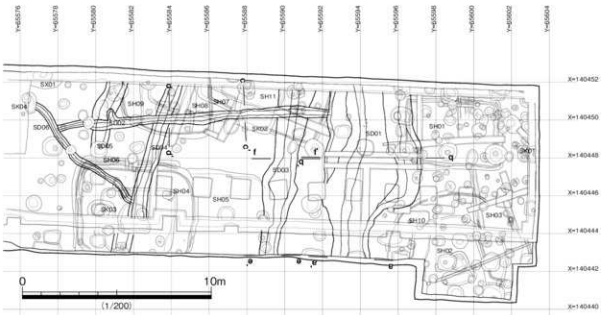
SD03(第 128、134 図)

SD01 と並行する。北よりやや東に振った方向である。埋土上層部からややまとまって遺物が出土している。土師質土器鍋 375 ～ 377、同足釜 378・379、備前焼 380 が出土している。出土遺物からは 14 世紀後半から 15 世紀頃の年代が考えられる。

（5）ピット及び包含層等出土遺物 (第 135 図)

ピット及び包含層等出土遺物を掲載する。出土位置の詳細については遺物観察表を参照されたい。381 ～ 410 はピットから出土した遺物である。384 は SP11 と SP19 から出土した破片が接合した。391 は 7 世紀代の SB04 の柱穴 SP68 から出土したとされているが、明らかに中世の土器であり、上層の SD01 に帰属する遺物と考えられる。410 は結晶片岩製の打製石庖丁である。

411 ～ 424 は包含層等から出土した遺物である。411 ～ 413 は弥生土器である。414 は器種不明である。415 は須恵器である。416 ～ 419 は土師質土器である。420・421 は同心円当て具痕のある土師質焼成の土器である。422 は陶器の甕と考えられる。423 は中国産青磁椀である。424 は重弧文軒平瓦である。



SD01

1　2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルト　砂利を多く含む　（上層）
2　2.5Y5/2 暗灰黄色粘土　（b-b' 断面 2 層に対応）
3　2.5Y4/1 黄灰色粘土質シル　少量の砂利を含む　（b-b' 断面 4 層に対応）
4　2.5Y4/2 暗灰黄色粘土質シルト　黄色を帯びる　（SP193）

1　2.5Y5/4 黄褐色砂質シルト　黄褐色砂質ブロック(ベース土に類似)を少量含む
　ベース土に類似し、遺構周辺からの流れ込みによる堆積土
2　2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルト　砂利を含む、ベース土ブロックはごく少量含む
　ベース土に類似し、遺構周辺からの流れ込みによる堆積土
3　10YR4/2 灰黄褐色シルト質粘土　多量の礫（大半は拳大、30～60cm の大型礫を数点含む、大多数を花崗岩が占める）
　少量の土器片を含む、ベース土ブロックはほとんどない。ブロック化や粘土が見られ、滞水状態での堆積
4　2.5Y4/2 暗灰黄色粘土質シルト　Mn 沈着ない・ベース土ブロックは含まない
　ブロック化や粘土は見られず、滞水していない状態での堆積
5　2.5Y6/4 にぶい黄色砂質シルト　少量の Mn 沈着　（ベース土）
　※1 層は検出面から深さ 10cm までを「上層」で遺物取上げ　1 層の深さ 10～30cm 深と 2 層を「下層」で遺物取上げ
　3・4 層は「最下層」で遺物取上げ

SD02

1　2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルト　黄褐色粘土ブロックを含む

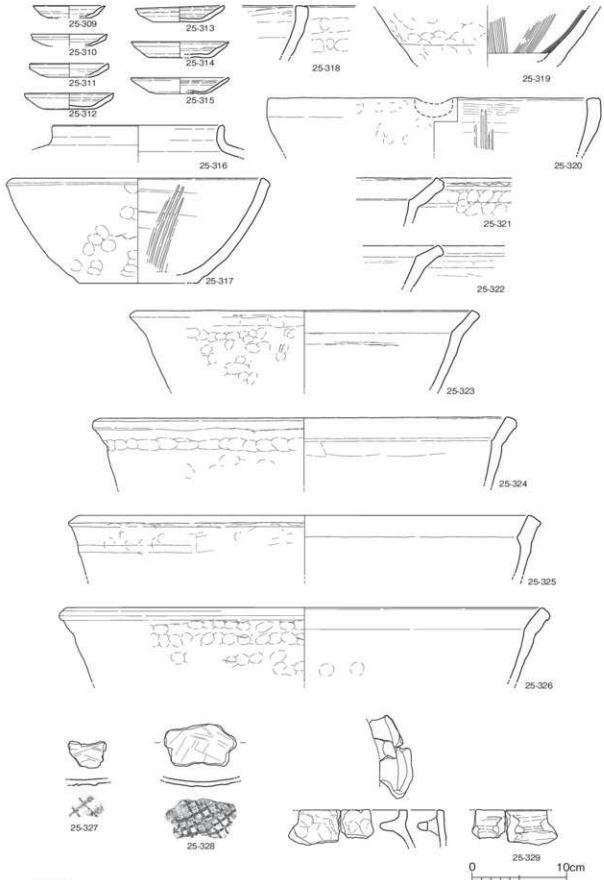
1'　2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルト　黄褐色粘土ブロック及びごく少量の炭を含む

SD03

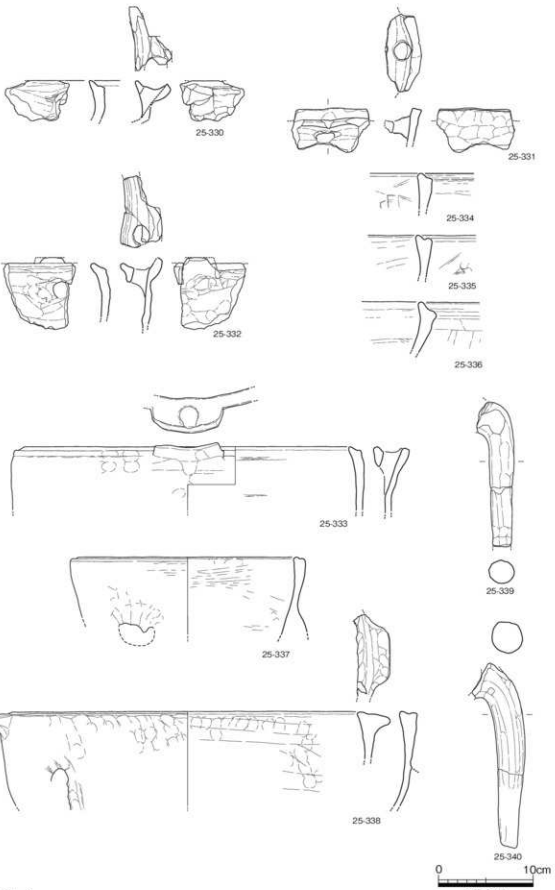
1　10YR4/2 灰黄褐色シルト質粘土　黄色を帯び、砂利を含む

1　2.5Y5/4 黄褐色粘土質シルト　10cm 大の礫・黄褐色粘土ブロックを少量含む
2　2.5Y4/ オリーブ褐色粘土質シルト

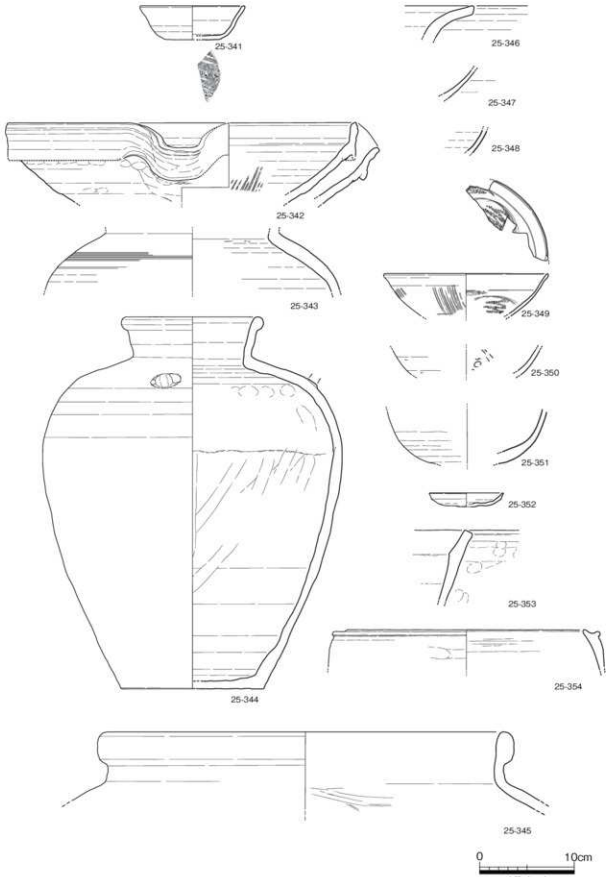
第 128 図　SD01 ～ 03 平・断面図



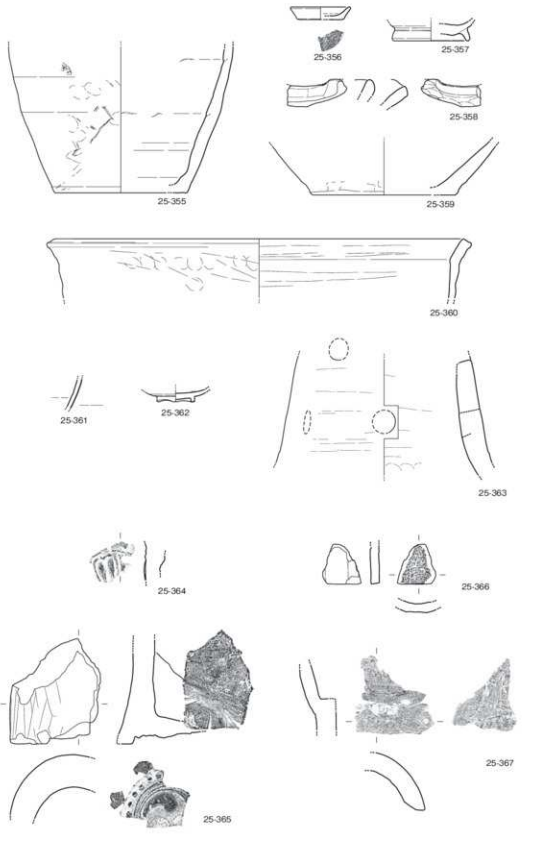
第 129 図　SD01 遺物実測図 1



第 130 図　SD01 遺物実測図 2



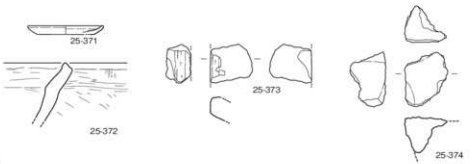
第 131 図　SD01 遺物実測図 3



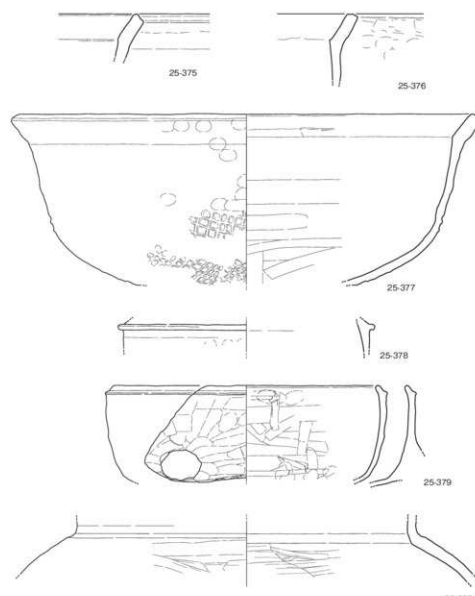
SD01_4

第132図　SD01遺物実測図4

第 133 図　SD01 遺物実測図 5

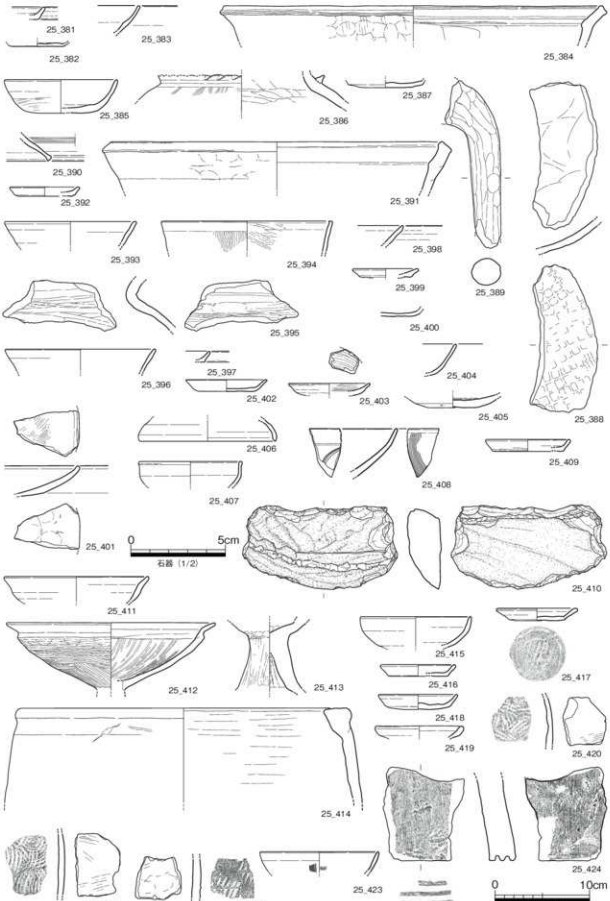


SD02



SD03

第134図　SD02・03遺物実測図



第 135 図　ピット及び包含層遺物実測図

4　平成25年度調査総括（第136図）

弥生時代終末期、7世紀及び中世の遺構が検出されている。詳細な時期不明の古代の掘立柱建物跡が1棟あるが、これについては、ここでは省略する。

弥生時代終末期

確実な竪穴建物跡として、8棟を検出した。SH02は平面形が円形であるが、他は方形である。その他当該期の遺構としては、土器棺と考えられるピットがあるが、溝等の遺構は無い。出土遺物としては7世紀の竪穴建物跡からではあるが、銅鏃1点が出土している。

7世紀

かまど付き竪穴建物跡1棟、竪穴建物跡1棟、大型掘立柱建物3棟、溝跡3条、土坑3基が検出されている。大型建物跡は、かまど付き竪穴建物跡より新しい。

大型建物SB04がある。面積は66.7㎡で、郡衙関連施設とされている善通寺市稲木北遺跡のSB3001（推定65.7㎡）とほぼ同じ規模である。これと方位及び柱穴配置がそろうのがSB06とSB07である。柱穴規模もSB04とほぼ同じである。この3棟は密接な関連を持つ建物群と考えられる。当遺跡の北側近接地に旧南海道が推定されていることから、この建物群も郡衙関連施設といった官衙的な性格を持つものと考えられる。

建物群の展開については、西側にはほぼ同時期と考えられるSD07があることから、これが西側の境界となる可能性がある。その場合は、SB07は東西3間までの規模となる。北側及び東側への建物群の展開については、不明である。

遺物としては、小片であるが竪穴建物跡から黒色土器が出土している。

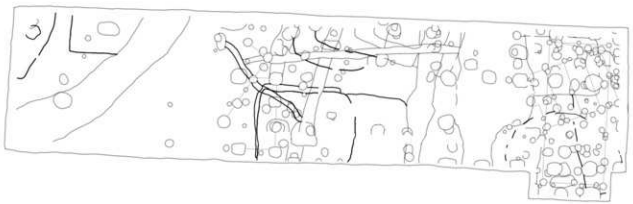
中世

掘立柱建物跡3棟、土坑1基、溝跡3条が検出されている。掘立柱建物の時期は不明確であるが、SB02については、大溝SD01と関連すると考えれば15世紀後半頃となる。

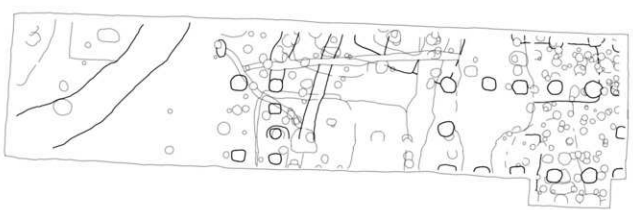
大溝SD01から土器及び石塔等が出土している。同形態の土師質土器皿や鍋を複数出土していることから、15世紀代の土器組成を示す資料と考えられる。

※「一般国道11号坂出丸亀バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第1冊　稲木北遺跡、永井北遺跡、小塚遺跡」香川県教育委員会　2008

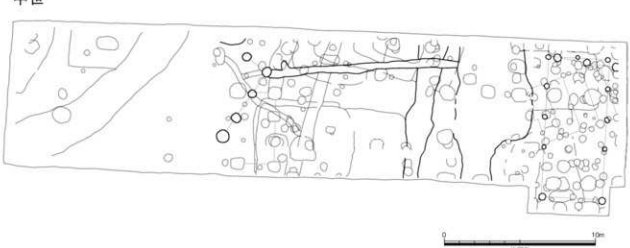
弥生時代終末



7 世紀



中世



第 136 図　平成 25 年度調査区遺構変遷図